I 研究主題

子どもたちが生き生きと輝く授業の創造

~ 学力向上を図るための望ましい学習指導の在り方 ~

Ⅱ 主題設定の理由

平成17年10月,中央教育審議会より「新しい時代の義務教育を創造する」(答申)が出された。 これによると、「基礎的な知識・技能を徹底して身に付けさせ、それを活用しながら自ら学び自ら考 えるなどの『確かな学力』を育成し、『生きる力』を育むという基本的な考え方は、今後も引き続き 重要である。」と述べられており、学校教育における基本理念について、再度、提言がなされた。

また、「生徒の学習到達度調査」(PISA2003: Programme for International Student Assessment 2003)においては、「数学的リテラシー(応用力)」は6位、「読解力」は0ECD平均並みの14位となり、この二つの分野で前回調査(2000年)より大きく順位を下げた。特に、読解力では論述能力が弱い傾向にあり、数学についても、興味・関心が低いという実態が分かった。

本県における学習指導上の課題も、各教科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る 指導や学び方の基礎・基本である学習技能及び方法の指導の徹底などが挙げられる。この課題解 決のためにも、児童生徒が「分かる喜び」や「できる喜び」を味わうことのできる授業を目指し て、指導方法の工夫改善を図っていくことが大切である。

本県の児童生徒の学力の実態を示すものとして、宮崎県教育委員会から「平成17年度小・中学校学力調査」(平成17年5月)の分析結果が公表された。これによると、学力の実態としては、小・中学校のほとんどの教科で全国の平均点を上回った。これは、各学校における基礎的・基本的な内容を定着させるための取組など、学力向上に対する努力の成果の現れであり、今後も継続的、発展的に指導方法の工夫改善を図っていく必要がある。

本県の教職員の指導上の課題を示すものとして、「宮崎県教育研修センターの在り方に関する調査」(平成16年1月)の調査結果が挙げられる。この中で、教育研修センターに対して、学力向上や学習指導方法の改善、学習評価に関する支援を「望む」「強く望む」と回答している教職員が、約9割に上っていることが明らかになった。このことから、本県の教職員にとって学習指導に関する指導力の向上を願う意識が強いことがうかがえる。

以上のことをふまえ、研究員研修の全体研究においては、「授業を構築する力を高め、分かる授業を展開し、児童生徒の学力を向上させる」という教師としての原点に立ち返ることにした。

研究を進めるにあたっては、国や県の指針や各調査の分析結果や各研究員が捉える教育的課題などから、目指す授業像である「子どもたちが生き生きと輝く授業」を設定することにした。この授業像を基に本県の教職員の学習指導上の課題を明確にすることで、児童生徒の学力を向上させるための望ましい学習指導の在り方を構築できるものと考える。

このように、「子どもたちが生き生きと輝く授業」の在り方を究明することで、本県の児童生 徒の学力向上が図られると考え、本研究主題を設定した。

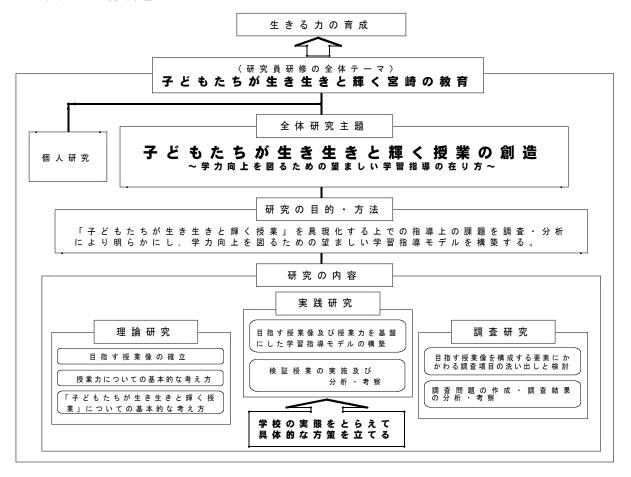
Ⅲ 研究の目的・方法

「子どもたちが生き生きと輝く授業」を具現化する上での学習指導上の課題を調査・分析により明らかにし、学力向上を図るための望ましい学習指導モデルを構築する。

IV 研究計画

【年 度】	【研究の目標】	【研究の内容】
平成17年度	「子どもたちが生き生きと輝く授 業」についての理論を構築する。	○ 理論研究(目指す授業像・授業力に関する理論構築)○ 調査内容と項目の検討
平成18年度	「子どもたちが生き生きと輝く授業」に関して、県内の各学校の実態をとらえる。	○ 理論研究(前年度構築理論の深化)○ 調査研究(目指す授業にかかわる各学校の実態把握)○ 調査結果の分析と考察
平成19年度 (本年度) 平成20年度	「子どもたちが生き生きと輝く授業」を具現化する学習指導の在り方を究明する。 (実践対象は平成19年度センター研究員所属校)	○ 実践研究(小・中学校での授業検証による学習指導モデルの構築)○ 検証授業の分析と考察
平成21年度	5年間の研究の評価を行い,成果 と課題を明らかにする。	○ 研究の成果と今後の課題の整理

V 研究の全体構想



VI 昨年度までの研究の概要

1 「子どもたちが生き生きと輝く授業」のとらえ方

中央教育審議会より平成17年10月に出された「新しい時代の義務教育を創造する」(答申)においては、学習指導要領の見直しの視点として、「読み・書き・計算」などの基礎・基本を定着させ、学力向上を図るとともに、教えて考えさせる教育を基本として、自ら学び自ら考え行動する力を育成することなどを重視することが挙げられている。

本県が進めている「宮崎ならではの教育」においても、学力向上を図る指導として、知への 興味・関心を高めながら、各教科などにおける基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、知 識や技能を身に付け活用する力、学ぶことへのやる気・意欲、自分で考える力、自分で判断す る力、自分で表現する力、問題を解決し自分で道を切り拓いていく力などの「確かな学力」を 身に付けさせていくことを重要課題としている。

このような国や県の指針を受け、研究員研修の全体研究においては、今後の学習指導の在り方として、児童生徒一人一人が生き生きと学びながら、基礎的・基本的な内容や学び方を確実に身に付けられる授業を構築することが必要であると考えた。そこで、これらの要素を含んだ授業を「子どもたちが生き生きと輝く授業」と位置付け、その授業像を児童生徒の立場から以下のようにとらえ、本研究を進めることにした。

【子どもたちが生き生きと輝く授業像】

『児童生徒自身が主体的な問題解決や学び合いを通して,

「分かる喜び」や「できる喜び」を味わうことのできる授業』

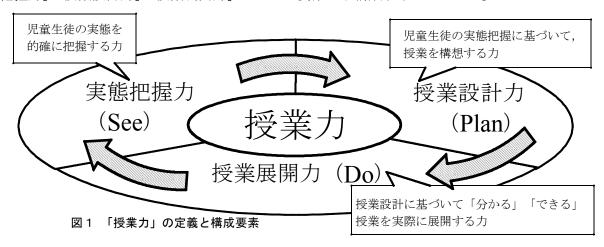
- ★ "主体的な問題解決や学び合い"とは?
 - ⇒ 「基礎的な知識・技能の育成」と「自ら学び考える力の育成」とを目的とした、 個人または学習集団における全ての学習活動のこと。 《学習活動の側面から》
- ★ "「分かる喜び」や「できる喜び」を味わう"とは?
 - ⇒ 学習内容や学習活動のよさ、楽しさを味わい、基礎・基本を確実に身に付けていく 学習のこと。 《学習状況の側面から》

2 「授業力」の定義と構成要素

「子どもたちが生き生きと輝く授業」を構築し、目指す児童生徒の姿を具現化するためには、 教師一人一人が児童の実態を基に授業を設計し、展開することが必要である。

本研究においては、このような授業を構築する力を「授業力」と定義する。

これらの内容をふまえ、授業の計画・実践・評価に照らして、「授業力」を図1のように「実態把握力」「授業設計力」「授業展開力」の三つの要素から構成することとした。



3 「授業力」に関する調査研究

目指す授業像「子どもたちが生き生きと輝く授業」を具現化するため、「授業力」を構成する 基本的な教師の技能等を明らかにし、それらの技能等について教師の実践状況の傾向をとらえる ための調査研究を進めていくこととした。

(1) 「授業力」を構成する基本的な教師の技能等の整理

図1の「授業力」の定義と構成要素を基に、「実態把握」「授業設計」「授業展開」の各場面における基本的な教師の技能等について、表1のように項目と観点に分類・整理し、さらに具体的な技能等についてまとめることとした。

ア 実態把握力

実態把握力については、児童生徒の実態を、「学習内容への興味」「学習状況」「学び方」「生活経験」の4点から把握することが大切であると考えた。

また、実態把握力は診断的評価、形成的評価、総括的評価が、単元や1単位時間にかか わって適切に行われなければならないため、項目や観点においてもさらに、「授業前」「授 業中」「授業後」の各場面における具体的な内容を示すこととした。

イ 授業設計力

授業設計力は、児童生徒の実態把握に基づいて授業を構想する力であり、教材解釈、 教材開発にかかわるものとして「教材」、児童生徒の実態把握に基づく目標設定、単元の評価計画、学習指導過程、評価の位置等を「計画」、具体的な授業場面を想定した「学習活動」、授業を支える環境づくりとして「学習環境」という項目を設定した。そして、それぞれの場面に応じて、具体的な内容を示した。

ウ 授業展開力

授業展開力とは、授業設計に基づいて、「分かる」「できる」授業を実際に展開していく 力のことであり、教育への情熱や感性等の心理的な側面から迫る「使命感」と、表現力や統 率力等の技術的側面から迫る「指導技術」の大きく二つの項目を設定した。また、授業展開 力は、教師の指導力が児童生徒を前にして授業の具体的な場面で発揮されることから、それ らの項目をさらに大観点と小観点に分けて具体的な内容を示した。

- (2) 「授業力」に関する質問内容一覧の作成と調査
 - ア 「授業力」に関する質問内容一覧の作成

「授業力」についての具体的な技能等を基にして、表1のように「授業力」に関しての 具体的な内容を明確にし、質問内容一覧として作成した。これをもとに、各教師の自己評 価によるアンケート調査のための質問紙を作成した。

- イ 「授業力」についての実態調査
 - (ア) 調査のねらい
 - 児童生徒が生き生きと学びながら、基礎的・基本的な内容や学び方を確実に身に付けられる授業を構築するために、必要であると考えられる教師の技能等を明らかにするとともに、「授業力」に対する教師の意識の傾向をとらえる。
 - (イ) 調査対象
 - 平成17年及び18年度宮崎県教育研修センター研究員の所属校(18校)
 - 平成17年度研究員所属校···宮崎市立赤江小学校,宮崎市立高岡小学校,日南市立酒谷小学校,三股町立三股西小学校,小林市立三松小学校, 高千穂町立高千穂小学校、高鍋町立高鍋西中学校、川南町立唐瀬原中学校,県立宮崎南養護学校、県立宮崎養護学校
 - 平成18年度研究員所属校···富崎市立住吉南小学校,申間市立福島小学校,都城市立東小学校,門川町立草川小学校,富崎市立大宮中学校, 宮崎市立大塚中学校,都城市立祝吉中学校,延岡市立西階中学校
 - (ウ) 調香内容
 - 実態把握力,授業設計力,授業展開力にかかわる項目
 - (エ) 調査方法
 - 質問紙によるアンケート調査 (質問紙に記載されていない内容で、記入者が重要と考えるものについては自由記述で回答)
 - (オ) 集計方法
 - 調査対象校で記述した用紙を回収後、県教育研修センター研究員が一括集計

以下に、「授業力」に関する調査研究で活用する内容を示す。

【表1 授業力に関する質問内容一覧】

les:	+T-			【衣 技未力に関する貝向内谷一見】
授業力	項目	1	観 点	質 問 内 容
(1)		アー学	習内容への興味	・教科への興味・関心の状況を具体的に把握している。
(1)		ノ 子) 	百円谷への興味	・本教材への興味・関心の状況を具体的に把握している。
夫	1			【授業前】・学習の基礎となる事項の定着度を具体的に把握している。
態	実	イ 学	習 状 況	【授業中】・評価計画に基づいて、学習状況を具体的に把握している。
lm	態			【授業後】・目標への到達度を具体的に把握している。
把坦	把			【授業前】・学習方法や形態などの、これまで経験したことのある学習の仕方 (グループ学習やコンピュータを使った学習など)を具体的に把握している。
握		ウ学	び 方	・学習への取組の姿勢(学習習慣、態度等)を把握している。
力	握			【授業後】・本単元での学習の仕方 (グループ学習やコンピュータを使った学習など) の定着状況を把握している。
		エ生	活 経 験	【授業前】・本単元学習に関する生活経験の状況を具体的に把握している。
	(1)	ア教	材 分 析	・教材を分析し、教材のもつ特性を的確にとらえている。
(2) 授	教材	イ教材	オ化・教材開発	・児童生徒の能力や興味・関心等に合った教材、地域素材を生かした教材を開発している。
1又	(2)	ア目	標	・学習指導要領と単元との関連を明確にとらえ、目標設定をしている。
41∕-		./ +l≤	· 当. 面	・児童生徒の実態や学校の特性に応じた指導計画や学習指導過程の工夫をしている。
業	計画	イ 指	導 計 画	・レディネスをそろえるために、既習事項の復習等の時間を単元の中に設定している。
⊐ π.	画	ウ 評	価 計 画	・場面や方法を明確にした評価計画を立てている。
設	3	ア学	習 課 題	・目標及び指導計画に基づいて学習課題を設定している。
3 1	学	イ教	材 ・ 教 具	・効果的な資料や教具等を準備、工夫している。
計	習	ウ発	問	・児童生徒の思考を促す発問を考えている。
	活	エ板	書	・効果的な板書になるよう工夫している。
力	動	才 場	形態	・学習の場や学習形態の工夫をしている。
	④環境	アー学	習環境の整備	・主体的な学習を促す学習資料(常掲資料等)の整備や学習環境づくりに心がけている。
	1	ア目標	票に到達させる意欲	・全ての児童生徒が学習の目標に到達できるように心がけ、授業にのぞんでいる。
(3)	使	イ児	童 生 徒 理 解	・児童生徒一人一人に気を配り、学習意欲や学習状況(言動、反応、変化等を 含む)を共感的に受け止めている。
授	命感	ウ コミ	ュニケーション能力	・視線や児童生徒との距離に気を配りながら、授業の中で対話や交流を積極的に行っている。
41/-			(ア)説明・指示	・児童生徒の実態に応じて、分かりやすく的確に説明・指示をしている。
業		マーキ明よ	(1)発 問	・児童生徒の実態に応じて、分かりやすく的確に発問をしている。
	2	ア 表現する力	(ウ)応 答	・共感したり、補足したりしながら多くの児童生徒の発言を取り上げている。
展	指		(エ)板 書	・児童生徒の実態に応じて、分かりやすく的確に板書をしている。
	導	<i>)</i> 4-2-3-	(ア) 教材・教具の活用	・児童生徒の実態に応じて,効果的に教材・教具を活用している。
開	技	イ 生かす 力	(イ)学習習慣の活 用(学習訓練)	・学習のきまり(ルール)を決め、それを意識させながら授業を進めている。
	術	ウ 伸ばす力	(ア)個に応じた指 導	・目標の到達状況に応じて、補充的な指導や発展的な指導を展開している。
力		エまとめ	(ア)指導の修正・ 変更	・児童生徒の実態に応じて,指導内容や指導方法,時間配分等を柔軟に調整している。
		る力	(イ)学習の総括	・学習課題に対するまとめを、分かりやすく的確に行っている。
		才評価が	(ア)評価	・評価計画に基づいて、学習状況を的確に評価している。
╙		- FILM / W/V	. , and desire	

4 調査の結果と分析

児童生徒自身が主体的な問題解決や学び合いを通して、「分かる喜び」や「できる喜び」を味わうことのできる授業を構築するために必要であると考えられる「実態把握力」「授業設計力」「授業展開力」に関する指導等について、教師の実践状況を明らかにし、「授業力」に対する教師の意識の傾向をとらえるための調査結果の分析と考察を行った。なお分析するにあたり、各項目の回答を学校種別及び全体において「常にしている…3」「時々している…2」「あまりしていない…1」「「していない…0」と点数化をして、平均値を出した。

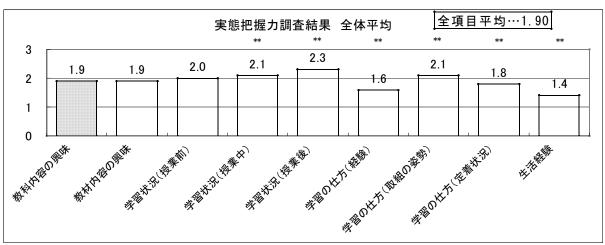
(1) 実態把握力

授業者の実態把握力に関する項目についての調査結果と考察については,以下のとおりである。

【実態把握力に関する調査結果のまとめ】

各項目の自己評価を点数化し、小・中学校を合わせた平均値を以下に示す。

※ 点数化については、「常にしている…3」「時々している…2」「あまりしていない…1」「していない…0」としている。



※ 全項目平均値と各項目の平均値との有意差を検定するため、t 検定を用いた。 (*. **はそれぞれ、P<0.05、P<0.01 水準で全項目平均値と比較して有意差あり)

- 『①-ア 学習内容への興味』に関する把握状況は、「常にしている」が20%弱であった。
- 『①-イ 学習状況』に関しての実態把握の状況は、他の項目に比べて高い結果となった。中でも、授業後における目標への到達度については、「常にしている」「時々している」を合わせると、90%であった。
- 『①-ウ 学び方』及び『①-エ 生活経験』に関する実態把握の状況は、全項目の平 均と比較して低い傾向にあった。

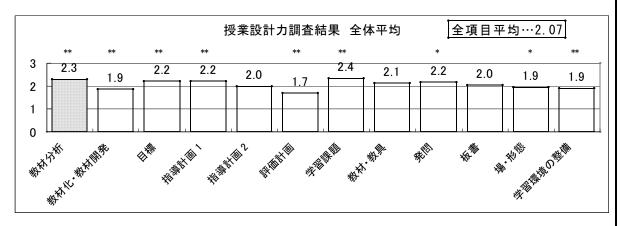
(2) 授業設計力

授業者の授業設計力に関する項目についての調査結果と考察については,以下のとおりである。

【授業設計力に関する調査結果のまとめ】

各項目の自己評価を点数化し、小・中学校を合わせた平均値を以下に示す。

※ 点数化については、「常にしている…3」「時々している…2」「あまりしていない…1」 「していない…0」としている。



- ※ 全項目平均値と各項目の平均値との有意差を検定するため、 t 検定を用いた。 (*, **はそれぞれ、P<0.05、P<0.01 水準で全項目平均値と比較して有意差あり)
- 『①-ア 教材分析』については、約90%が「常にしている」または「時々している」 と回答しているが、『①-イ 教材化・教材開発』については、30%近くが「していな い」または「あまりしていない」と回答している。教材開発にかける時間が十分に確保 できないことも要因の一つだろう。
- 小・中学校全体で共通していることは、『②-ウ 評価計画』の数値が他の項目に比べて特に低いことである。指導と評価の一体化が重要であるが、評価よりも指導面に重きが置かれる傾向にあるからではないだろうか。
- 『③-エ 板書』の工夫については、「あまりしていない」「していない」が20%以上となった。研修会等で、板書について協議される機会が少ないことが要因の一つと考えられる。
- 小・中学校ともに全項目の中では、『③-オ 場・形態』の工夫や『④-ア 学習環境 の整備』がやや低い結果となった。

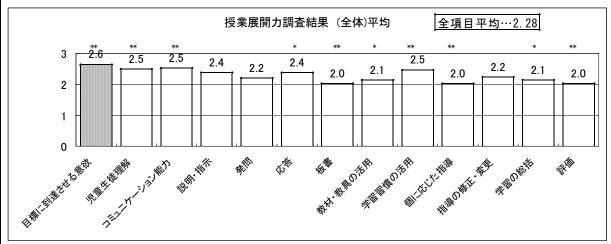
(3) 授業展開力

授業者の授業展開力に関する項目についての調査結果と考察については,以下のとおりである。

【授業展開力に関する調査結果のまとめ】

各項目の自己評価を点数化し、小・中学校合わせた平均値を以下に示す。

※ 点数化については、「常にしている…3」「時々している…2」「あまりしていない…1」「していない…0」としている。



※ 全項目平均値と各項目の平均値との有意差を検定するため、t 検定を用いた。 (*, **はそれぞれ、P<0.05、P<0.01 水準で全項目平均値と比較して有意差あり)

- 『① 使命感』においては、小・中学校3観点とも比較的高い意識をもって授業にのぞんでいるという回答結果を得た。使命感は指導力とも相関が高く、使命感が高いということは、授業力の基盤ができている傾向にあると言えるのではないだろうか。
- 『②-ア 表現する力』においては、どの項目も高い結果となった。しかし、『②-ア-(エ) 板書」については、全体で「あまりしていない」「していない」の割合が2割をこえ、全項目 平均と比較しても低い結果である。
- 『②-イー(イ) 学習習慣の活用』については、全体で9割以上の教師が「常にしている」時々している」を選択し、学習習慣づくり(学習訓練)に力を入れて取り組んでいることが分かる。逆に、『②-イー(ア) 教材・教具の活用』については小・中学校全体の平均値が他の項目と比較して低く、小学校よりも中学校の方が効果的に教材・教具を活用しているという回答を得た。これは、ほぼ全教科を担当する小学校と、教科担任制をとっている中学校との差ではないかと考えられる。
- 『②-ウ-(ア) 個に応じた指導』を「常にしている」と答えた割合は2割に満たなかった。 しかし、「時々している」まで含めると8~9割という結果になることから、学習形態の 工夫等、必要に応じて個に応じた指導を展開しているのではないだろうか。
- 『②-エー(イ) 学習の総括』では、「常にしている」割合が3割に満たない回答結果であった。これはおそらく、まとめの時間が不足することや、教科や単元の特性に応じてまとめが不要な場合があったりすることなどが要因として考えられる。
- 授業設計力と同様に、『②ーオー(ア)評価』に関する自己評価が低い結果となった。これは、効果的かつ実用的な評価方法が、個人又は各学校において確立されていないからではないかと思われる。
- 「実態把握力」「授業設計力」と比較すると、「授業展開力」に関する自己評価は高い傾向 にある。

_	9	_

VII 本年度の研究の概要

1 研究の仮説

児童生徒自身の主体的な問題解決や学び合いを通して、教材・教具の工夫を行えば、児童生徒に「分かる喜び」や「できる喜び」を味わわせることができるであろう。

※ 教材・教具の工夫については、各検証授業において具体的な手立てを挙げることにする。

2 研究内容

実践研究

- 目指す授業像及び授業力を基盤にした学習指導モデルの構築
- 検証授業の実施及び分析・考察

(1) 研究の視点について

昨年度の研究において、「授業力」を構成している3つの構成要素「実態把握力(See)」「授業設計力(Plan)」「授業展開力(Do)」について28観点で教師の意識調査を行った結果、「教材・教具」「板書」「評価」の3項目が低いことが分かった。

特に、教材・教具については、昨年度の調査結果から、多くの教師が、教材・教具の工夫は授業の目標を実現させる上で有効であり、個に応じた指導を展開するという観点からも重要な役割を果たすということを認識していることが分かった。同時に、準備が困難であったり、時間的にゆとりがなかったりして教材・教具の活用が十分にできていない状況があることも分かった。そこで、本年度は「教材・教具」の分析、開発、活用についての工夫に焦点を当てて研究を行うことにした。

また、教材・教具を活用させるだけでは、「分かる喜び」や「できる喜び」を十分に味わわせるには至らないと思われる。そこで、主体的な問題解決や学び合いの態度を身に付けさせる方法を明確にし、教材・教具の活用を支えるようにした。

(2) 教材・教具の工夫の視点について

教材・教具の工夫について3つの視点を設定した。

第1の視点は、事象提示の工夫である。事象については、「身近なもの」と「比較できるもの」に焦点を当てた。これは、児童生徒にとって身近な事象を提示することにより、生活経験との関連から興味・関心を高め、「分かる喜び」「できる喜び」につなげるためである。また、比較できる事象を提示することにより、児童生徒に「分かる」「できる」ことと「分からない」「できないこと」を自覚させ、知的好奇心を高め、「分からない」「できない」ことが「分かる」「できる」という喜びにつなげるためである。

第2の視点は、主体的な学習を促進させる工夫である。児童生徒は受け身の学習ではなく主体的な学習を通して、「分かる喜び」「できる喜び」を味わうことができる。そのため、児童生徒の主体的な学習を促進するための教材や教具材を工夫することに着目し、追求活動を支える補助教材や具体的な活動を保障するための教具の開発を行うことにした。ただし、教科の特性に応じて進めていくこととした。

第3の視点は、思考と発表を一体的に進める工夫である。学び合いや練り合いの場面においては、児童生徒の思考過程をたどることでお互いの理解が深まる。そこで、思考と発表を一体的に進めることができるような教具の開発を行うこととした。

これらの視点をもとに、小学校(第4学年・算数)、中学校(第2学年・社会)で検証を行う ことにし、次のように具体的な手立てを考えた。

第1の視点《事象提示の工夫》

→「身近なもの」

(小学校算数, 身近な素材の活用)(中学校社会, 身近な地域素材の活用)

→「比較できるもの」

(小学校算数, 異なるものの比較) (中学校社会, 異なる地域の比較)

- 第2の視点《主体的な学習を促進させる工夫》
 - → (小学校算数, 具体物の活用) (中学校社会, 資料の活用)
- 第3の視点《思考と発表を一体的に進めるための工夫》
 - → (小学校算数, 思考と発表のための道具活用)

(3) 研究の検証について

教材・教具の分析,開発,活用の具体的な視点を挙げ,授業改善のポイント(要素,普段の授業をどう変えればいいのか)を明らかにしていく。

検証授業においては、授業前の児童生徒の意識調査と単元のレディネステスト、授業中の学級担任における児童生徒の様子(取組、理解度等)と抽出児童(抽出生徒)の様子、授業後の児童生徒のアンケートや学級担任、参観者のアンケート等によって、教材・教具の開発や活用が効果的であったかどうか分析し、結果をまとめる。また、2回の検証授業(小学校、中学校)の分析・考察から学習指導モデルを作る。

3 研究経過

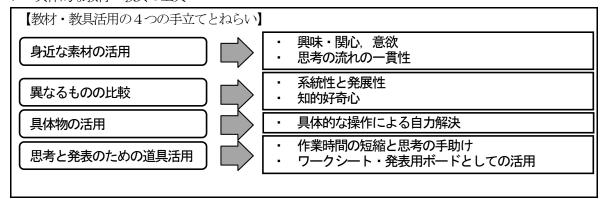
月	日	曜日	□	研究内容	月	日	曜日	□	研究内容	
	11	水	1	前年度の研究概要の確認,		12	水	20	実態調査の分析,指導案検討	
4	11	7	1	今年度研究の方向性	9	18	火	21		
4	18	水	2	今年度の研究計画・組織等		25	火	22		
	25	水	3	今までの研究の流れ, 今年		3	水	23	授業の視点・指導案の検討	
	2	水	4	度の研究内容の検討		10	水	24		
	9	水	5	研究の方向性・仮説・検証	10	17	水	25		
5	14	月		検証授業(1)の教材研究,	10	24	水	26	教材・教具づくり	
	22	火	7	実態調査作成		26	金	27	教例・教芸ライザ	
	30	水	8	実態調査の分析,教材開発		30	火	28	検証授業(2)三股中学校	
	6	水	9	授業の視点・指導案の検討	11	11 5	月	29	事後研究会(検証授業の分	
6	13	水	10		11	14	月	30	析と考察)	
	20	水	11		12	12	水	31	授業モデルの構築、研究の	
	9	月	12	検証授業(1)西池小学校	14	28	金	32	成果と課題	
7	12	木	13	事後研究会(検証授業の分		9	水	33		
•	18	水	14	析と考察)	1	16	水	34	研究紀要作成	
	24	火	15	検証授業(2)の教材研究,		23	水	35	M Junu 女 TFAX	
	1	水	16	理論の再構築		30	水	36		
8	24	金	17	松虹極紫(9)の粉料理療		6	水	37		
	29	水	18	検証授業(2)の教材研究, 実態調査作成		13	水	38	研究紀要の手直し	
9	3			2	20	水	39			
						27	水	40	次年度研究の方向付け(引継ぎ)	

4 研究の実際

(1) 第1回検証授業【宮崎市立西池小学校】

実施校 学年 : 宮崎市立西池小学校 第4学年 算数科「面積」

ア 具体的な教材・教具の工夫



イ 実態調査

(ア) 事前アンケート

授業力	観点	質問内容・ねらい
	学习中央・5個中	教科への興味・関心の状況を具体的に把握している。
	学習内容への興味	本教材への興味・関心の状況を具体的に把握している。
	Q質問内容	Qあなたは算数科の学習がすきですか。
	*ねらい	Qそのわけを教えてください。(記述)
		*算数科への興味・関心の状況を具体的に把握する。
		Qあなたは図形の学習がすきですか。
		Qそのわけを教えてください。 (記述)
		*図形への興味・関心の状況を具体的に把握する。
	学習状況	学習の基礎となる事項の定着度を具体的に把握している。
	【授業前】	
	レディネステスト	復習プリントの実施
	*ねらい	*図形の学習の基礎となる事項(図形の概念、辺の長さの計測、かけ算・たし算・ひき算・
		単位)の定着度を具体的に把握する。
	学び方	学習への取り組みの姿勢(学習習慣、態度等)を把握する。
	【授業前】	学習方法や形態など、これまで経験したことのある学習の仕方(グループ学習やコンピュー
		タを使った学習など)を具体的に把握する。
宇	Q質問内容	Qあなたは「なぜ」「どうして」と思いながら,算数の学習をしていますか。
態	*ねらい	*学習への取り組みの姿勢(学習習慣、態度等)の把握
実態把握力		Qあなたは算数の学習で、分からない問題があったときにどうしますか。
勞		ア)自分で調べる。
		イ)先生や友達に聞く。
		ウ) そのままにしておく。
		*問題解決的な学習における、取り組みの姿勢(学習習慣、態度等)の把握
		Qあなたが学習するときに、どの方法が分かりやすいですか。
		【当てはまるもの全てに○をつけてください。】
		ア)道具を使って考える。(数えぼう、お金、色板などを使う)
		イ)かいて考える。(式を立てて考える、絵や図を使う)
		ウ)頭の中で考える。
		*これまで経験したことのある学習の仕方(グループ学習やコンピュータを使った学習な
		ど)を具体的に把握する。
		Qあなたは算数の学習で、どんな学習の仕方が好きですか。
		【当てはまるもの全てに○をつけてください。】 ア)一人で調べて (考えて) 学習する。
		イ)二人で調べて(話し合って)学習する。 ウ)グループで調べて(話し合って)学習する。
		リ) グルーノ (調べて (話し合って) 字音する。 エ) 先生とみんなで一緒に話し合って (考えて) 学習する。
		*これまで経験したことのある学習形態を具体的に把握する。

「分かる喜び」	Qあなたは算数の学習をして「分かってうれしい」「できてうれしい」と感じたことがありますか。
「できる喜び」	*研究仮説検証のために、「分かる喜び」「できる喜び」に関する児童の意識を把握する。

*P5の【表1 授業力に関する質問内容一覧】に関連して表記している。

(イ) 事後アンケート

授業力	観点	質問内容・ねらい
	教材化 教材開発	児童生徒の能力や興味・関心等に合った教材、地域素材を生かした教材開発をしている。
授業設計力	Q質問内容 *ねらい	Q「アリとダンゴムシの問題」を聞いて「この問題をといてみたい!」という気持ちになりましたか。 Qそればなぜですか。(自由記述) *身近な素材の活用によって興味・関心、意欲が喚起できたかを検証する。 Qふうとうの中の色画用紙を出してくらべてみたとき、どれだけちがうか「知りたいなあ」「やってみよう」という気持ちになりましたか。 *異なるものの比較によって知的好奇心が喚起できたかを検証する。 Q最初に「ダンゴムシの家の形」を見たとき、広さをもとめるのは「むずかしいなあ」と思いましたか。 *既習事項と未習事項、簡単なものと難しいものの提示によって知的好奇心と解決への意欲が高まったかを検証する。
	教材・教具	効果的な資料や教具等を準備、工夫している。
	Q質問内容 *ねらい	Qふうとうの中の色画用紙は面積をもとめるときにどのように使いましたか。(自由記述) *自力解決への見通しをもつことができるよう工夫されていたかを検証する。(導入段階) *自立解決のための資料として活用できるよう工夫されていたかを検証する。(展開段階) Q「発表ボード」は、今日の算数の学習で役に立ちましたか。 *図を貼り付けたり、数字や文字、考え方等を書き込んだりして、思考と発表のための道具として活用できたかを検証する。
	教材・教具の活用	児童生徒の実態に応じて,効果的に教材・教具を活用している。
授		Q面積の出し方を考えるとき「ヒントコーナー」に行きましたか。 *個人差へ対応し、解決への見通しをもたせ、児童に満足感をもたせることができたかを検証する。 Q「自分なりのふくざつな面積の求め方」に気付いたのはいつですか。あてはまる番号に○を付けましょう。
授業展開力	Q質問内容 *ねらい	【 1 】 初めから分かっていた。 【 2 】 問題を聞いた時に気付いた。 【 3 】 一人で考えているときに気付いた。 【 4 】 二人で話し合っているときに気付いた。 【 5 】 ヒントコーナーに行って気付いた。 【 6 】 何人かで話し合っているときに気付いた。 【 7 】 「リトルティーチャー」と話し合ったときに気付いた。 【 8 】 学級全体で話し合っているときに気付いた。 【 9 】 最後まで分からなかった。 *どの段階で学習課題の解決を図ることができたかを検証する。
「分かる喜び」 「できる喜び」		Q今日の算数の学習で「分かってうれしい」「できてうれしい」と思いましたか。 *「思った」と答えた人に聞きます。 今日の算数の学習で「うれしい」と感じたのはどんなときですか(自由記述) *研究仮説検証のために、「分かる喜び」「できる喜び」に関する児童の意識を検証する。

*P5の【表1 授業力に関する質問内容一覧】に関連して表記している。

ウ 授業の構想

「教材・教具の工夫の視点について」で述べた具体的な手立てを,「手立ての理由」「期待する児童の姿」とともに以下のようにまとめた。

【表2 教材・教具の活用についての手立て】

	手立て	手立ての理由	期待する児童の姿
1	身近な素材の活用 アリとダンゴムシの活用	・ 場面設定をする際に実際の大きさと関連 のあるもので身近に接することの多いアリ とダンゴムシを設定した。それにより、児 童にイメージをもたせ、かつ、思考の流れ に一貫性をもたせるメリットがある。	・ 課題に興味をも ち, どんなことを 学習するのだろう という意識をもつ 児童
2	(導入段階) 異なるものの比較 簡 難 既 未 (導入段階)	 ・ 1つではなく2つを提示することにより様々な視点で比較検討ができるメリットがある。 ・ 簡単なものと,難しいものを提示することにより知のをがある。 ・ とにより知のをがある。 ・ 医習内容に似ているが、解決できるの意欲を高めるメリットがある。 ・ とで知的好奇心をくすぐり、解決できるの音があるが、解決できるのがある。 ・ 教材提示の際に、既習事項を合わせることで系統性と対しがある。 ・ 教材提示の際に、既習発展性に気あるをおけることで系統性とがある。 ・ することで系統性とがあるを提示することにより、どちらがをいるがらない。対して、はきるという問いに対して、見ただけで、広さの比較できるものであれば、面積を求める意味につながらない。) 	
3	具体物の活用 問題と同じ 表式太 の具体物活用 (導入と展開段階)	・ 児童の思考の流れに一貫性をもたせ、具体的な操作活動をすることによって、自力解決に導けるメリットがある。	
4	思考と発表のための 道具活用 ラミネートホワイトボード 裏 裏 (展開段階)	 長さの測定時間の短縮につながるメリットがある。 立式できない児童に対して1cm²がいくつあるのかという解決の方法に導けるメリットがある。 ワークシートとしても使え、ワークシート作成への時間的手間が省けるメリットがある。 そのまま発表用のボードとして活用でき思考過程も残せるメリットがある。 	ボードに数字や 文字,考え方等を 書き込み,思考と 発表のための道具 として活用してい る児童

また,前述したが今回の小学校算数の検証授業において「教材・教具の工夫」を充実させるために「主体的な問題解決や学び合いの態度を身に付けさせる方法」として4つ設定した。「理由」「期待する児童の姿」とともに以下のようにまとめた。

【表3 主体的な問題解決や学び合いの態度を身に付けさせる方法】

	方 法	理 由	期待する児童の姿	
	ヒントコーナーの設置	・ ヒントコーナーを設置し、見通しが立	・ ヒントコーナー	
		たない児童や,立式できない児童を支援	に行き,解決の見	
	図形に辺の長さを入れたも	できるメリットがある。(個人差に対応	通しが立ち満足し	
	のを提示することで児童の	させる) また安易にヒントコーナーを活	ている児童(背景	
1	思考を助ける。	用させない配慮をすることにより,解決	として、見通しが	
	また、補助線がかいてある	へ向けての意欲を高め「分かる喜び」を	立たず、解決した	
	ものを掲示することで、児	より感じさせる伏線とする。	いという意欲が高	
	童の思考を助ける。		まっている児童の	
	(展開段階)		姿がある)	
	少人数による意見交換	・ 見通しの段階で、隣や前後の児童と意	• お互いの考えを	
	(展開段階)	見交換を行うことによって、考え方のア	聞いて,考え方の	
2		ドバイスをもらったり、自分の意見に対	アドバイスをして	
		する確信をもたせたりするメリットがあ	いる児童や、自分	
		る。	の意見に対する確	
			信がでてきた児童	
	リトルティーチャーが	・ 児童の自主的な活動と人間関係づくり	・リトルティーチャ	
	活動する学び合い	につながるメリットがある。	ーとなって, 自主	
	(展開段階)	教師に聞くことに関して恥ずかしいと	的に他の児童に教	
3		感じる児童への対応ができるメリットが	え,そのことによ	
		ある。	って満足している	
		・ 教える側の児童の理解力の向上につな	児童	
		がるメリットがある。	・ 教えてもらうこ	
			とで分かり、満足	
			している児童	
	学級全体での学び合い	・ 児童に多様な考え方や数学的な考え方	・ 自分の解決方法	
		のよさに気付かせるための道具として活	を述べ,別の方法	
	ラミネートホワイトボード	用できるメリットがある。	にも気付く児童	
	を使って発表する活動を行	・ 認め合いの場を活性化させる道具とし		
4	う。	て活用できるメリットがある。		
	(発表を受けての質問や意			
	見の場も含む)			
	(展開段階)			

第4学年 算数科学習指導案

平成19年7月9日 指導者 森 幸子

① 単元名 面 積

② 単元の目標

- 長方形や正方形の面積を表すことに関心をもち、長方形や正方形の求積公式を利用して、身の まわりにあるものの面積を求めようとする。 (関心・意欲・態度)
- 長方形や正方形の求積の仕方を考えることができるとともに工夫して面積を求めることができる。 (数学的な考え方)
- 求積公式を用いて、いろいろな長方形や正方形の面積を適切な単位を選んで求めることができる。 (表現・処理)
- 面積の概念を知り、面積の単位cm, m, kmや長方形や正方形の求積公式を理解することができる。 (知識・理解)

3 指導観

○ 本単元は、学習指導要領の内容 B (1)「面積の意味について理解し、簡単な場合について、面積を求めることができるようにする」を主な内容としている。量と測定の領域では、第2学年で、長さの単位mm、cm、mを学習し、第3学年でさらにkmを学習している。広さについては本学年で初めて扱うことになる。広さについても、数で表すことができること、またその表し方について理解させることがねらいである。

本単元を通して「面積」という概念を理解することで、これまで感覚的に捉えていた広さを計算によって数値化できることや、公式のもつ数理的な処理のよさに気付くことができる。日常における「広い」「狭い」という定性的な見方から定量的な見方へと思考を切り替えていくとともに、次学年における平面図形を求積する際の基礎となる量感を養う上でも大変意義深い単元である。

○ 本学級の児童は、男子 17 名、女子 19 名、計 36 名である。授業に対しては意欲的に取り組む児童が多い。また、課題に対して粘り強く解決していこうとする姿も見られる。

算数科に関する意識調査では、下記のような結果であった。【表4】

【表4 意識調査の結果】

1 算数の学習は好きか?	大好き	好き	あまり好きではない	嫌い
	39 %	47 %	11 %	3 %
2 図形の学習は好きか?	大好き	好き	あまり好きではない	嫌い
	56 %	31 %	5 %	8 %
3 疑問を持ちながら学習している	いつも思う	ときどき思う	あまり思わない	思わない
か?	11 %	67 %	22 %	0 %
4 「分かってうれしい」「できてう	ある	ない		
れしい」と思ったことがあるか?	78 %	22 %		
5 分らない問題があったときどうす	自分で調べる	先生や友達に聞く	そのままにしておく	
るか?	33 %	67 %	0 %	
6 どの方法が分かりやすいか?【複	道具を使う	式や絵・図をかく	頭の中で考える	
数回答】	33 %	75 %	67 %	
7 どんな学習の仕方が好きか?【複	一人での学習	ペア学習	グループ学習	一斉学習
数回答】	58 %	39 %	44 %	44 %

算数を好み,図形に関して興味・関心がある児童が多い。また,学習問題に対して疑問をもち意欲的に学習しており,「分かった」「できた」という達成感・満足感を得た児童が8割近くいる。「分かった」「できた」という喜びを感じた経験がある児童のほとんどが「難しい(分からない,できなかった)問題ができた時うれしかった。」と答えている。難易度の高い課題を解決した時ほど,児童は喜びを感じることが分かる。さらに、分からない問題があれば先生や児童との学び合いによって解決しようとする児童も多い。

算数の学習では、計算問題などでは素早く答えを導き出そうとするが、計算の過程を説明したり適切に表現したりする力は十分に身についているとはいえない。また、数や図形などの具体的な操作については関心をもって取り組むが、見通しをもって考えたり筋道立てた計算や立式をしたりすることを苦手としている児童もいる。

事前にレディネステストを行った結果は、下記のとおりである。【表5】

		120	D / 1 1	,,,,	. жыто				
1	長方形	定義	94 %	選択	89 %	作図	97 %		
2	正方形	定義	92 %	選択	89 %	作図	97 %		
3	図形の構成	辺	78 %	頂点	72 %	辺・頂.	点の数		78 %
4	長さの単位 (概念)	mm	72 %	cm	94 %	m	86 %	k m	89 %
5	長さの単位換算	1 cm	78 %	1 m	78 %	1 k m	92 %		
6	倍数	× 10	86 %	× 100	86 %	× 1000	89 %		
7	筆算の計算	たし算	92 %	ひき算	75 %	かけ算	77 %		

【表5 レディネステスト正答率の結果】

かけ算やひき算の筆算においては計算の過程における理解が不十分であること、図形においては長 方形や正方形のイメージはもっているが、言葉による説明や図形の概念などは定着が不十分であるこ とが言える。具体物などを通して理解を深めてきているが、抽象的な内容に対しては苦手意識をもっ ていることがうかがえる。

○ そこで本単元の指導にあたっては、単元の学習に入る前に朝の時間等を使ってかけ算やひき算の筆算等の復習をし、既習内容の習熟度を高めておく。まず「教材・教具の工夫・活用」という視点から、問題提示の際に、児童が興味・関心をもっているものを活用して場面設定をし、問題にストーリー性をもたせることによって、児童の課題追究の意欲を高め児童の印象に残るようにしていきたい。また、具体物を提示し、児童に操作活動させながら解決への見通しをもたせ、自力解決を支援する。さらに、1cmの方眼用紙(ラミネートホワイトボードの裏)を作製し、立式できない児童が自力解決できるように支援する。特に本時の指導に当たっては、児童たちの身近な生き物を使って問題場面の設定をすることで興味・関心をもたせていきたい。また、既習事項と未習事項、簡単なものと難しいものを合わせた問題を提示し、問題の系統性や発展性をもたせるとともに、2つの図形を比較させることによって児童の知的好奇心をくすぐり解決への意欲を高めるようにしていきたい。

次に「主体的な問題解決や学び合いの態度を身に付けさせる方法」という点から、自分が考えた解決方法を書き込み、それをもって児童と意見交換したり、発表の際には黒板に貼ったりできるA3の上質紙(ラミネートホワイトボードの表)を児童に活用させる。また、少人数での学び合いでは、近くの児童と意見交換させることによって、自分の考えを明確にさせたり、アドバイスをもらったりすることによって、児童同士が教え合いながら自信をもって解決できるようにしたい。そして、自力解決した児童がリトルティーチャーとなり教えることによって、解決への手助けになるとともに、教える側の理解も向上させたい。この学び合いによって児童相互の人間関係の深まりも期待できる。特に本時の指導に当たっては、ヒントコーナーを設置し、児童が自力解決できるように支援する。同時に、安易にヒントコーナーを活用しないように行かせるタイミングを考慮する。そうすることによって、

児童にじっくり考える場を与えて解決に向けての意欲を高め、「分かる喜び」をより感じさせるようにする。また、学級全体での学び合いでは、自分の考えや解決方法を書いたラミネートホワイトボードを活用して説明させることによって、多様な考えを知ることで自分の考えを深めさせるようにする。さらに、様々な考え方を確かめ合うことで数学的な考え方のよさにも気付かせ、児童のよさを認め合う場にもしたい。本単元の学習を通して、研究テーマ「子どもたちが生き生きと輝く授業の創造」にせまりたい。

④ 指導計画 全9時間(本時8/9)

小単元	各時間の学習活動	指導の手立て	時間
課題設定	・ 池の広さ比べを通して面	・ 色画用紙で作製した図形を用意し	1
	積の求め方に関心をもつ。	て,実際に1cmの方眼用紙を使って	
	・ 単位を決めて広さを数量	操作しながら広さを比べさせる。	
	化し測定のよさを知る。	・ 池と同じ広さの画用紙を用意し,	
		実際に重ねて比べさせる。	
1 面積	・ 面積の単位cmを知る。	1 cmの方眼用紙を使って1 cmの正	1
		方形がいくつあるか数えさせる。	
	決められた面積の図形を	1 cmの方眼用紙を使って、決めら	
	作図する。	れた面積の図形を作図させる。	
	・ 長方形,正方形の面積を	・ ヒントコーナーを準備し活用させ	1
	求める公式を発見する。	る。	
		・ 問題と同じ形の色画用紙を用意	
		し, 1 cmの方眼用紙を使って考えさ	
		せる。	
	・ 長方形の面積を求める公	・ ヒントコーナーを準備し活用させ	1
	式を活用して問題を解く。	る。	
		・ 1 cmの方眼用紙を使って考えさせ	
		る。	
2 大きな面積	・ 面積の単位㎡を知る。	・ 大きな面積を求めるのに, 1 cmの	1
		方眼用紙を使って 1 cm²を数える大変	
	m²単位で面積を求める。	さに気付かせる。	
		・ 大きな面積も図形の面積を求める	
		公式が使えることを理解させる。	
	m²とcm²の関係を理解す	1 m²と1 cm²の紙の大きさを見比べ	1
	$_{\circ}$ (1 m 2 = 10000 cm 2)	て,関係を理解させる。	
	1 m²の量感をとらえる。	・ 1 ㎡を新聞紙で作図するなどし	
		て、量感をつかませる。	
		 1 m²の新聞紙で、教室の広さやど 	
		れだけ人が入れるかなどを測る。	
3 面積の求め方	・面積の単位㎞を知る。	・ 写真や地図などを活用し、kmの量	1
の工夫	・ kmgとmgの関係を理解す	感をつかませる。	
	る。(1 km²= 1000000 m²)		

3 面積の求め方の	・ 複合図形の面積を工夫し	・ 1 cmの方眼用紙を使って考えさせ	1
工夫	て求める。	る。	(本時)
		ヒントコーナーを準備し活用させ	
		る。	
		・ 学び合いの場を設定する。	
たしかめ道場	・ 図形の面積を,公式を活	・ 学び合いの場を設定する。	1
面積めいろ	用して問題を解く。	・ 児童の進み具合に合わせた練習問	
面積づくり	・ 面積が同じで形が異なる	題を準備する。	
	図を作図し,面積の意味の	発展問題を用意する。	
	理解を深める。		

⑤ 本時の目標

○ 複合図形の面積を工夫して求めることができる。(数学的な考え方)

6 学習指導過程

段階	· 自由等過性 学習内容及び学習活動	指導上の留意点(授業の視点に直結する手立て☆)	資料・準備
- 特人	,	○ 長方形と正方形の面積の公式や図を事前に掲示	
	課題意識をもつ。	し、既習の内容を振り返ることができるように	·
	アリさんとダンゴムシさん	する。	挿し絵
8	/ / c/c/c/c/c/c/c/c/c/c/c/c/c/c/c/c/c/	☆ 問題文に児童の身近な生き物である「アリ」と	アリ
分	i i	「ダンゴムシ」の場面を設定することによって	ダンゴムシ
	た。どちらの家が広いでしょ	児童に興味・関心をもたせたい。	図形
	<u>ۇ</u> .	○ アリとダンゴムシのどちらの家がどれだけ広い	長方形
	II	かを予想させることによって、課題意識をもたせ、	逆L字型の図形
		児童一人一人が主体的に学習に取り組めるように	
		する。	
		^ ~ ~ 。 ☆ 長方形と逆 L 字型の図形を比較させることに	
	アリさん ダンゴムシさん	よって、児童に既習事項とは少し違うという認識	
		をもたせ、知的好奇心をくすぐりたい。	
		, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	2つの図形の実寸大
		児童の洞察力を培う機会にするとともに、解決へ	の色画用紙
		の意欲を高めたい。	
	○ 2つの図形の実寸大の色画	☆ 2つの図形の実寸大の色画用紙を配布し、重ね	・ めあてカード
	用紙を直接比較する。	たり、折り曲げたり、辺の長さを測ったりなど児	
	ふくざつな形の面積のもとめ	童たちに自由に操作させながら直接比較できない	
	方を考えよう。	ことに気付かせ、解決への意欲を高めたい。	
	力を与えよう。		
	2 本時のめあてを知る。	│ ○ 片方は長方形であるので既習の公式で簡単に面	
		積を求められるが、もう一方は長方形でも正方形	
	アリ(長方形)	でもない形なので、その複雑な形の面積の求め方	
	・ ダンゴムシ(ふくざつな形)		
	アンームン(かくこうは形)	であたくいくことをレジがり打さんる。	

- もつ。
- (1) 自分で考える。
- (2) 学び合う。
- 少人数での意見交換
 - (1) ア) 2つの四角 (2)形に分ける。
 - イ) 2つの四角 (2) 形に分ける。
 - ウ) 3つの四角形 1 に分ける。 (3) 2
- エ) 大きな長 1 方形から余 分な長方形 を引く。

展

開

32

分

- オ) 1 cm 方眼用紙をつかって数 える。
- 面積を求める。
- (1) 自分で考える。
 - ヒントコーナーの活用
- にまとめる。
- (3) 学び合う。
 - 意見交換
 - リトルティーチャー
 - $\mathcal{T}) \ 2 \times 4 = 8 \ 3 \times 7 = 21$ 8 + 21 = 29 (29 c m²)
 - $\cancel{3} \times 3 = 9 \quad 5 \times 4 = 20$ 9 + 20 = 29 (29 c m²)

- 3 面積を求める方法に見通しを 形に着目させ、長方形のアリと同じように、ダー・2つの豚の実状 ンゴムシの複雑な形も計算して数字で広さを表す の色画脈 ことができることに気付かせ、解決への見通しを もたせたい。
 - ☆ 隣同士など少人数での意見交換をすることで、 自分の見通しに自信をもたせたり、より明確な見 通しをもつ支援になったり、さらに、見通しがも てない児童には、見通しへのヒントとなるように したい。

- 4 自分が立てた見通しに沿って ☆ 辺の長さを測定するのに時間がかかる児童に · 1 an till III (ラミ は、1 cm 方眼の用紙を活用させることによって、 正確かつ迅速に測定できるように支援する。
 - ☆ つまずいている児童にはヒントコーナーを用意 したり、教師から助言したりして自力解決を支援・ヒントコーナー(解 し、「分かった」「できた」という達成感を味わわし、洗はイとエを提示す せたい。
- (2) ラミネートホワイトボード ☆ 立式が無理な児童には、1 cmの方眼用紙を使っ て、1 cmの数を数えることによって答えが導けた という達成感を味わわせたい。
 - ☆ 自分が立てた解決の見通しに応じて自力解決し ていく際に、自分の考えや計算などが自由に書き 込めるようなラミネートホワイトボードを用意す・ ラミネートホワイト
 - ☆ ラミネートホワイトボードに自分の意見をまと める際は、色画用紙で作った図形を貼り、必要な 辺の長さや長方形や正方形の用語などを書き込 み、できるだけみんなに分かりやすくまとめるよ うに助言する。

- ネートホワイトボード の裏)

ボード

ウ)	$3 \times 3 = 9 2 \times 4 = 8$
	$3 \times 4 = 12$
	$9 + 8 + 12 = 29 (29 \text{ cm}^2)$

☆ 自力解決できた児童は、他の児童と意見交換を したり、リトルティーチャーになり自力解決の手 助けをしたりする。

を聞くことによって多様な考え方を知ることが・ラミネートホワイト

できるようにするとともに、考えを認める態度 ホート

○ 他の児童の発表を聞く際に自分の考え方と比

較しながら聞き、質問や補足をすることで、考 えをより確かなものに練り上げていきたい。ま

た、他の児童の考え方のよさを発表させ、認め

☆ 発表した児童の考えを認めることによって,

を育てる。

工) $5 \times 7 = 35$ $2 \times 3 = 6$ 35 - 6 = 29 (29 c m²)

展開 才) (29 cm²)

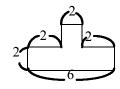
> 5 面積の求め方と結果を発表し ○ 学級全体での学び合いでは、他の児童の発表 合う。

32 ○ 全体での学び合い 分 アリ $\sim 30 \text{ cm}^2$ ダンゴムシ~ 29 cm² (アリさんの方が広い)

- 質問,補足
- ・ 他児童の考え方のよさ
- 「分かった」「できた」という達成感を味わわ せたい。さらに、正確さ、簡単さなどの視点か らそれぞれの考え方を確かめ合うことによって 数学的な考え方のよさにも気付かせたい。

合うことで自信をつけさせたい。

- 6 面積の求め方についてまとめ 面積を求める方法について多様な考え方がある が、それらの求め方を整理させることによって いくつかの考え方にまとめられることに気付か せる。
- る。
 - いくつかの四角形に分けて 面積を求め、最後にたす方法 (ア, イ, ウ)
 - 1 つの大きな四角形として とらえて面積を求め、余分な 四角形の面積を引く方法(エ)
- 1 cm²を数える方法(オ)
- 7 面積の求め方を確かめる。

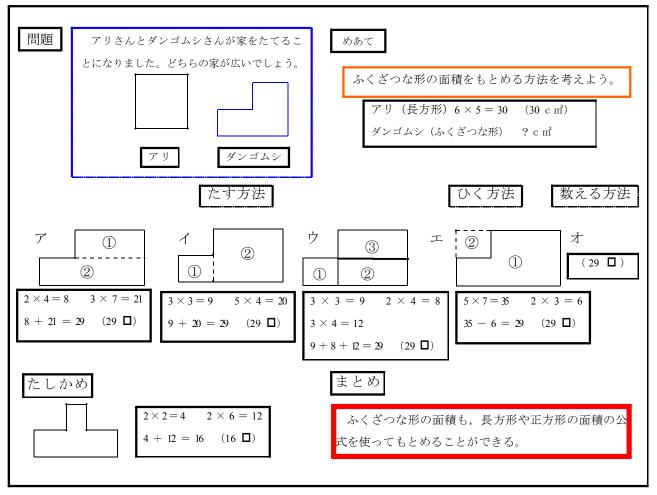


(例) $2 \times 2 = 4$ $2 \times 6 = 12$ 4 + 12 = 16 (16 c m²) ○ 本時の問題と類似した練習問題を解かせること によって、面積の求め方を確かめさせるととも ・ 図形の對大の色画 に、「分かった」「できた」という達成感・成就 感を味わわせたい。

 終末
 8 本時のまとめをする。
 ○ 複雑な形の面積も公式を使って求められること・まとめカード

 5 分
 長方形や正方形の面積の公式を使ってもとめることができる。
 * 次時の「たしかめ道場」等で、定着・習熟を図るようにする。

团 板書計画



オ 授業の記録

○ 教師の発問や児童の様子

	○ 教師の発問や児童の様子 教師の発問等 教師の発問等					
段階	学習内容及び学習活動	(授業の視点に直結する手立て☆)	児童の様子等			
導 入	1 問題をつかみ、予想を 立てて問題意識をもつ。 2 本時のめあてを知る。 ふくざつな形の面積の求 め方を考えよう。	(授業の視点に直結する事立で☆) 今日はお友達を連れてきています。 ☆ アリとダンゴムシの絵の提示(身近な素材の活用) ○ 今日の問題です。 ☆ アリとダンゴムシの家の図形の提示(異なるものの比較) ○ 見ただけではどちらが広いか分からないね。どうする。 ○ 形に注目してみましょう。 ○ 長方形でも正方形でもない形を複雑な形といいます。 ○ 複雑な形は? ○ では、今日のめあては…。	 アリ・クランとした表情) ・ アリ・きとした表情) ・ ないちというできれる。 ・ からいのである。 ・ かいのでである。 ・ かいのでは、 ・ かいのでは、			
展開	3 面積を求める方法に見通しをもつ。 (1) 自分で考える。	○ 実際のだね。 ☆ 実付ののでははこのであるとはこのである。 ☆ 実付のをもののではないののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	 辺を測ってみる。 (活動開始) 5cm×6cm=30cm² 6cm×5cm=30cm² (活動開始) 重ねている。 長さや答えを書き込んでいる。 			

(2) 学び合う。



- となりの人と意見交換をし てみましょう。
- 見ているといろいろな方法 でしている人がいましたよ。
- こうすればいいと考えつい | ・ 約三分の一 た人。
- 自信はないけど考えついた | ・ 約三分の一
- 全く見つかっていない人。
- 見つけた人は発表してくだ さい。

(意見交換開始)

- 約三分の一
- マス目を数える。
- ・ 重ねて残りを切り取っ て考える。
- 分けて計算してみる。

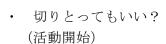
4 自分が立てた見通しに 沿って面積を求める。



展

開

- では、自分が考えた方法で やってみましょう。
- 予想がつかなかった人は、 3人のどれかをやってみると いいですね。
- ボードに写しても貼っても いいです。
- ☆ ラミネートホワイトボード の活用(思考と発表のための 道具活用)
- 式と答えは大きく書いてく ださい。
- 図形に書き込んでも構いま せん。
- 質問はありませんか?
- はい、いいですよ。では始 めましょう。(机間指導)
- どうしてもわからない人は ・ ヒントコーナー①へ9 ヒントコーナーへどうぞ。
- 早く終わった人は、別の方 法を考えてください。 (机間指導)
- ヒントコーナーへ行っても ・ 2人が教師の下へ。 分からない人はいつでもどう ぞ。
- 答えが出た人はいますか?
- では、友だちと意見交換を してみましょう。まだ解決し ていない人は手を挙げてくだ さい。今から行きます。(個 別指導)
- トルティーチャーとして動い ・ 自分の所へリトルティ



- 名。その後、ヒントコー ナー②にも行く。
- 教師と一緒にヒントコ ーナー②で学習。
- 手が挙がる。(複数) (活動開始)
- 手が挙がる。(少数)
- 意見交換が終わった人はリー・数名動き出す。





5 面積の求め方と結果を 展 開 6 面積の求め方について 7 面積の求め方を確かめ

発表し合う。

まとめる。

る。

てください。(机間指導)

- ※ 方法の確認をしながら4名 の代表児童を把握。発表準備 の指示を出す。
- 各自席について下さい。
- 自分で考えた方法で発表し てもらいます。
- ☆ ラミネートホワイトボード の活用(思考と発表のための 道具活用)

他の考えもありますか?

- これは分かり易いなあとい う方法はありませんか?
- これまでの方法を見て,幾 · E の方法は,ますを数 つか同じ方法にまとめられそ うな気がするのですがどうで すか?
- 計算する方法をいくつかま とめられませんか?
- 次の図形(凸型図形)は, 今までの方法を使ったらでき そうですか? (机間指導)
- 代表の人に今から発表をし てもらいます。
- 16cm²になりましたか?
- では、今日の学習をまとめ ます。
- 最初、複雑な形を求めるの は難しいと思っていたけど、 どんな方法を使えば求められ ることが分かりましたか?
- て求めることができますね。

- ーチャーを呼ぶ児童もい る。
- 4名の児童がラミネー トホワイトボードを貼り 発表の準備をする。
- A マス目を数えた。(同 様の考え2人)
- B 上下に図形を分けて計 算した。(同様5人)
- C 左右に図形を分けて計 算した。(同様多数)
- D 大きな長方形にして引 き算した。(同様2名)
- E 重ねて空いたところを 埋めてみる。
- 特に反応なし
 - える方法として考えられ
- 計算する方法がまとめ られる。
- 切って分ける考えは、 左右でも上下でもたす方 法。
- ・ 最初に大きな長方形に したのはひく方法。
- はい。(数名挙手) (活動開始・自力解決)
- 上下(正方形と長方形) に分けて考えた。答えは 16cm²になる。
- ・ ほとんど挙手

本時のまとめをする。

終

末



- 計算する方法
- 複雑な形の面積は,長方形 や正方形の面積の公式を使っ
- (たす・ひく)
- ・ 正方形を求める方法
- ・ 長方形を求める方法

※ ラミネートホワイトボードは、児童への短い指示として「発表ボード」に置き換えている。

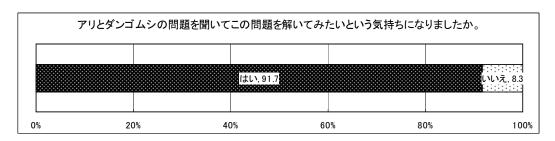
オ 結果及び考察

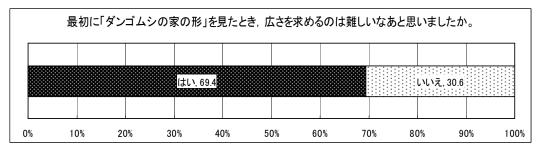
(ア) 事後アンケートの結果

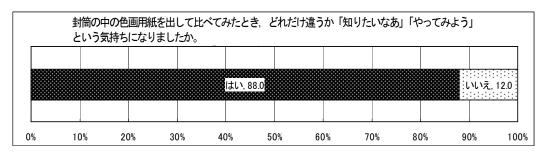
対象者: 宮崎市立西池小学校 第4学年 107名

- a 授業設計力
 - (a) 教材化·教材開発

児童生徒の能力や興味・関心等にあった教材・地域素材を生かした教材を開発している。

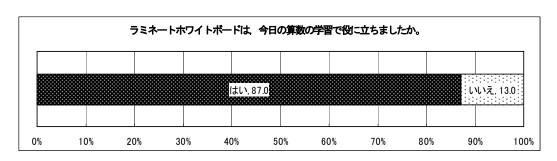






(b) 教材·教具

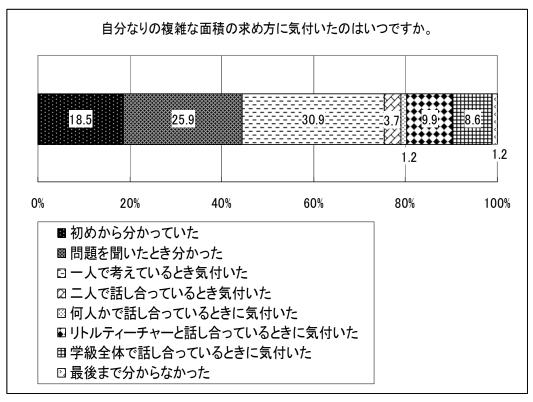
効果的な資料や教具等を準備、工夫している。

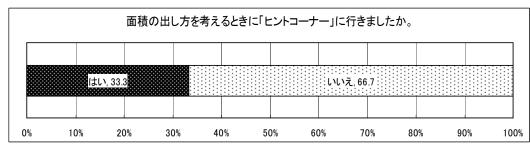


b 授業展開力

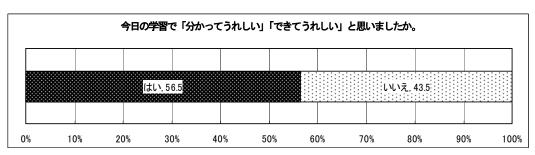
(a) 教材教具の活用

児童生徒の実態に応じて、効果的に教材・教具を活用している。





c 「分かる喜び」「できる喜び」



*アンケートの視点は、P5の【表1 授業力に関する質問内容一覧】に関連して表記している。

(イ) 事前の実態調査及び事後のアンケートの比較

「場面設定」「比較」「具体物の活用」「思考と発表のための道具活用」の4つの手立てを行うことによって、「分かってうれしい」「できてうれしい」につながったかを『「分かってうれしい」「できてうれしい」と感じた児童数の推移』によって比較することとした。また、「算数に関する意欲の変容」「不満自覚とのかかわり(定義についてはP27に述べている)」「見通しをもつ段階と不満自覚の関係」の視点でも検討することとした。

- a 「分かってうれしい」「できてうれしい」と感じた児童数の推移
 - (a) 結果及び考察

【表6】は、算数の学習で『「分かってうれしい」「できてうれしい」と感じたことがありま

すか』という問いに対して「ある」 「ない」で回答する事前アンケートと、今回の授業後に『「分かってうれしい」「できてうれしい」と思いましたか』という問いに対して「思った」「思わなかった」で回答

した人数の推移表である。

- 【私 ○ 「人木」	, C 1X	术区 00八级07正191	
授業前		授業後(1名欠席)
分かってうれしい できてうれしいと	8	分かってうれしい できてうれしいと 思った	3
感じたことが「ない」	0	分かってうれしい できてうれしいと 思わなかった	4

【表6 授業前と授業後の人数の推移】

この表からわかるように、授業前に「分かってうれしい」「できてうれしい」と感じたことがない児童が8名おり、そのうちの3名が、授業後に「うれしい」と感じたという結果になった。また、3名の児童の授業後のアンケートを見ると「思考と発表のための道具活用」によって、「マスを数えるのに役に立った」という感想や「具体物の活用」によって、「知りたいなあ」「やってみよう」という気持ちになったという感想があった。

これらのことから、4つの手立てによって、これまでの授業において「分かる喜び」「できる喜び」を感じることのできなかった児童を変容させることができたと考える。

- b 算数に関する意欲の変容
 - (a) 結果及び考察

「ときどき思う」「あまり 思わない」「思わない」で 回答する事前アンケート と、今回の授業後に『封 筒の中の色画用紙を出し て比べてみたとき、どれ だけ違うか「知りたいな あ」「やってみよう」とい

	授業前		授業後(1名欠席)		
	「なぜ」「どうして」	と	「知りたい」「やってみよう」と	いう	
	あまり思わない	8	気持ちになった	5	
	めより心ががない。	0	気持ちにならなかった	3	
	ときどき思う 24		気持ちになった	20	
	こさこで心ノ	24	気持ちにならなかった	4	
	いつも思う 4		気持ちになった	3	
			気持ちにならなかった	1	

【表7 授業前と授業後の人数の推移】

う気持ちになりましたか。』という問いに対して、「なった」「ならなかった」と回答した人数 の推移表である。

この表から分かるように、授業前に「あまり思わない」と感じた児童が8名おり、そのうちの5名が、授業後に「知りたい」「やってみよう」という気持ちになったと回答している。

このことから、「具体物の操作活動」の手立てによって、意欲が高まったと考える。しかし、「なぜ」「どうして」と「いつも思う」児童の4名のうち、1名は、授業後に「知りたい」「やってみよう」と思わなくなっており、その理由を児童にインタビューを行った結果、問題が難しかったという感想であった。

以上のことから、児童にとって問題が難しすぎたことによって意欲の低下につながったと考える。

c 不満自覚とのかかわり

本研究では、不満自覚とは、わからないことを自覚することであり、不満自覚が高まることで 知的好奇心がくすぐられると捉えた。

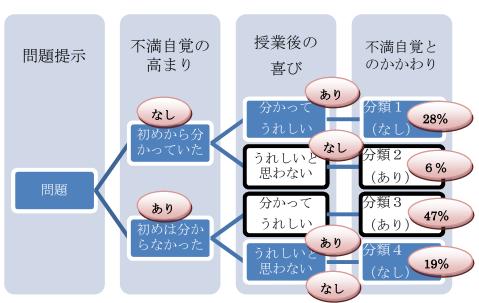
つまり、不満自覚が高まり、知的好奇心がくすぐられると、問題を解きたいという意欲が高まり、問題が解けた時に感じる「分かる喜び」「できる喜び」を高める要素の一つであると考えている。

なお、授業の構想で述べた4つの手立て(P12)の中では、不満自覚の高まりを『解決に向けた知的好奇心のくすぐり』という言葉で表現している。

(a) 結果及び考察

不満自覚との かかわりの「ある」 「なし」について の考え方は、【図 2】のようにまと めた。

分類1は不満 自覚の高まりが なく,授業後に喜 びがあるため,不 満自覚とのかし」と した。分類2は不 満自覚の高まり



【図2 不満自覚とのかかわりの「ある」「なし」】

がなく、授業後に喜びがないため、不満自覚とのかかわりが「あり」とした。

分類3は不満自覚の高まりがあり、授業後に喜びがあるため、不満自覚とのかかわりが「あり」とした。分類4は不満自覚の高まりがあり、授業後に喜びがないため、不満自覚とのかかわりが「なし」とした。

そして、4年生3クラスの事後アンケートから、分類1=28%、分類2=6%、分類3=47%、分類4=19%という結果を得た。

また、分類 $2 \cdot 3$ の『不満自覚とのかかわりが「あり」』だけの人数を比較すると、分類 2 の割合が 22%、分類 3 の割合が 78%であった。

考察として,問題を提示され,初めは分からないことによって,不満自覚が高まると分かった時に,「うれしい」という喜びへつながる可能性が高いと考える。

d 見通しをもつ段階と不満自覚の関係

(a) 結果及び考察

【表8 4年生各クラスの不満自覚とのかかわり】

4年生,各クラスの, 分類1~4の人数は**【表 8】**である。

この結果から、B組だけは、分類1と分類2の

クラス	分類 1	分類 2	分類3	分類 4	合計
Α	10	2	17	7	36
В	6	8	18	4	36
С	10	4	16	5	35
合計	26	14	51	16	107

数字が逆転していた。そのため、不満自覚とのかかわりについて、3回の授業の違いを洗い出 した結果、見通しをもつ段階での教師の支援内容の違いが挙げられた。

A組では、問題を解くための見通しを児童一人一人に考えさせた後、教師と一緒に全体でまとめることをしなかった。B組では、教師が実物大の画用紙を使って比較する方法を児童の前で演じて見せ、問題を解く方法を知らせる活動を行った。C組では一人一人に考えさせた後、教師が意見を集約し板書することで、見通しをまとめる活動を行った。

そこで、「分かる喜び」「できる喜び」を感じなかった児童は、どの段階で問題が解けたと感じているのか、追跡調査を行った。その結果が【表9】の見通しをもつ段階の比較である。

【表9 見通しをもつ段階の比較(「分かる喜び」「できる喜び」を感じなかった児童)】

		A組			B組		C組	
いっ	段階	人数	『まとめなし』	人数	『画用紙』	人数	『板書』	
初めから分かっていた	導入	1		6	見通しをもつ	1		
問題を聞いた時に気づいた	等八	1		2	段階で、実物	3	見通しをもつ	
一人で考えている時	展開前半	1		4	大の画用紙を	2	段階で、板書	
二人で話し合っている時		1	見通しをもつ段階で、まと	0	使って比較する方法を演じ	0	し全体でのま とめをした場	
何人かで話し合っている時		0	めをしない場	0	た場合、導入	0	合、導入から	
リトルティーチャーとの 活動の時	展開後半	1	合,展開後半に分かった児	0	から展開前半で分かった児	1	展開前半で分かった児童が	
学級全体で話し合っている 時		3	童が多い。	0	童が多い。展 開後半に分か	1	多い。展開後 半で分かった	
最後まで分からなかった		1		0	った児童は一	1	児童もいる。	
合 計		9		12	人もいない。	9		

3クラスを比較して、見通しをもつ段階での活動の違いにより、解決の時期が違うため、見通しをもつ段階の影響があったと考察される。

また,不満自覚との関係を考えるならば,早い時期に問題が解けたため,不満自覚をもつ前に解けたことになり,「分かる」「できる」を感じることはできたが,それぞれの「喜び」を感じるまでには至らなかったと考えられる。

その視点で、【表9】を見ると、見通しをもつ段階で、教師の支援を精選して解決方法をすぐに与えないことで、児童の自力解決への道をつくり、「分かる喜び」「できる喜び」を味わわせることができるのではないかと考えられる。

(ウ) 教師の手立ての考察

本実践の検証の一つとして、児童の主体性という視点で見たとき、教師の手立てを受けて どのような反応をみせ、どのように変容するかを探ってみた。

○ 抽出児童について

日頃の算数の授業の中で、担任と検討し以下の児童を抽出した。

- 主体的に活動する姿が多く見られる児童…児童A
- ・ 授業への活動が積極的とも消極的とも言い難い中程度の児童…児童B
- ・ 活動に対して消極的な姿が多く見られる児童…児童C

3人の授業中の態度やつぶやき、表情等は以下の通りであった。【表10】

【表10 抽出児童の授業の様子】					
手立てとねらい	児童A	児童B	児童C		
問題文に児童の身近	・ 笑顔で挿絵を見た。	笑顔で挿絵を見た。	・ 挿絵に食い入る		
な生き物を使って場	・ 大きな声で問題文	・ 真剣な眼差しで問	ようにじっと見て		
面設定を行うことで	を読み上げた。	題文を読んだ。	いた。		
児童の学習に対する	・キャラクターの		問題をみんなと		
興味・関心を高める。	挿絵と場面設定に	キャラクターの挿絵	一緒に, 比較的小		
	興味をもち、真剣	と場面設定に興味を	さな声で読んだ。		
	に授業に取り組も	もち、笑顔が出たの			
	うとする姿が見ら	だと思われる。	大きな声で問題文を		
	れた。	意欲が高まったので	読むには至らなかっ		
		真剣な眼差しで読ん	たが、挿絵を見つめ		
	指示にも素早く反応	だのだと思われる。	る様子から, 興味が		
	し, 学習への意欲が		出たと思われる。		
	高まったと思われる。				
長方形と逆L字型の	2つを比較し、自	2つを比較し、自	・ 周りの児童の様		
図形を比較させるこ	分の予想に手を挙	分の予想に手を挙	子を見て、「ダン		
とによって,児童に	げた。	げた。	ゴムシ」に挙手し		
既習事項とは少し違	逆L字型の図形	集中して前をみて	た。		
うという認識をもた	を見て「六角形」	いた。	↓		
せ, 知的好奇心をく	と答えた。		周りの児童の状況を		
すぐる。	・ 長方形の面積を	既習内容では解決で	伺いながら挙手して		
	計算する際,間違	きそうにないので,	いた様子から、自信		
	えて周の長さを計	だいたいの予想で挙	がなかったと思われ		
	算していた。	手していると思われ	る。しかし、その後		
		る。そして、分から	のヒントコーナーに		
	形の違いに着目し,	ないことに対する興	行くときの意欲的な		
	既習事項の長方形に	味が高まり、集中し	態度から、意欲をな		
	ついては自信が見ら	た表情になったと考	くしたのではなく不		
	れたが、間違えて周	える。	満自覚が高まって解		
	の長さを出してしま		決の意欲が高まった		
	い、やや意欲が落ち		と思われる。		
	たように思われる。				
2つの図形の実寸大	・ 具体物を提示す	・ 長方形の紙を手	・ 具体物を提示す		
の色画用紙を配布し	ると注視していた。	にとり、複雑な形	ると注視していた。		
自由に操作させるこ	・具体物を折り曲	の紙を重ねてみた。	長方形の紙の一		
とで、直接比較でき	げて考えていた。	・前席の子に声を	辺の長さを定規で		
ないことに気付かせ	・ 挙手して「マス	かけて話し合おうと	測ったり、2枚の		
解決への意欲を高め	目を数える」と発	していた。	用紙を重ね合わせ		
る。	表した。		たりしていた。		
	・ 児童は解き方に	具体物である長方形	・ 他の児童とは話		

早く気付いたため | や複雑な形の紙を操 | すでにマス目を数 え終わり,発表を うずうずしながら 待っていた。

待っている間は やや集中力に欠け ていた。

具体物を操作し解き 方を考えるところま では、集中するのだ が早く分かった時点 から自分のするべき ことを見失い,集中 力が欠けてきたのだ と思われる。

作しながら思考に役 立てていた。他の児 童に声を掛けて話し 合おうとする態度に 問題解決へ向けて, 意欲が高まっている ものと思われる。

し合わず, 一人で 調べていた。

- 教師が許可する とヒントコーナー に急いで行った。
- ヒントでも分か らない様子で,教 師に尋ね、説明を 受けた後, すぐに 正しい式と答えを 書き込んだ。

ヒントコーナーへ行 って意欲的に解決す る方法を探る姿や積 極的に教師に尋ねる 様子から, 意欲が高 まっているものと思 われる。

ラミネートボードに 考え方等を書き込ま せることで, 思考と 発表に生かすことが できる。

- 逆L字型をマス 目に重ね数えた。
- ・ 別の方法で解こ うとするが,斜め に分けてしまい, うまくいかず何回 も書き直していた。
- 発表については 別の方法を考えて いたので挙手しな かった。

試行錯誤し考える姿 が見られたことから ラミネートボードは 思考と発表に生かす ことができたと思わ れる。

- ・ すぐにラミネー トボードに書き込 みを始めた。
- 長方形と複雑な 形を、それぞれラ ミネートボードに 写し,「マス目を 数える」と記入。
- 教師が机間指導 をして,マス目を 数えるように支持 する。
- ・ 発表はしなかっ たものの,同じ考 えの人として挙手 をする。

すぐに書き込みをし たことから意欲が高 まったと思われる。 写したり,数えたり することで、思考に 役立てていたと思わ れる。

- ・ ラミネートボー ドのマス目を使っ て長さを測る。
- 自分一人で式と 答えを導き出し, すぐそばの担任の 方を見る。

解き方が分かったこ とで, 友だちの発表 をよく聞き, 自分の 考えを確認している ように思われる。で きたという達成感が もてたと思われる。

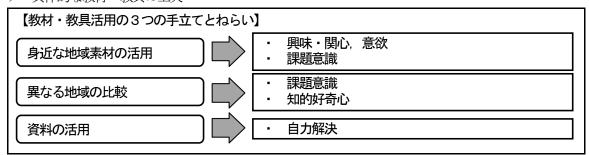
《抽出児の変容から見た教師の手立ての考察》

- 導入時に児童の身近な生き物を使って場面設定をすると、学習に対する意欲が高まった。
- 既習の力で解決できる長方形と、既習の力では十分に解けそうにないL字型とを比較す ることで、不満自覚を高めることができた。しかし、早々と自分の考えを試して間違えた 場合に、それが原因で意欲が落ちてしまう場合もある。
- 具体物を通しての思考では、意欲を高めることができた。しかし、早く解けた児童には 待たなくてもいいように教材・教具の工夫をする必要がある。
- 自分の考えを簡単に書けたり、そのまま発表に使えたりするラミネートボードを活用し たことで、思考を深め、発表の充実につながった。

(2) 第2回検証授業

実施校 学年 : 三股町立三股中学校 第2学年 社会科「世界と日本の人口」

ア 具体的な教材・教具の工夫



イ 実態調査

(ア)事前アンケート

授業力	観点	質問内容・ねらい
	2433445 A Fire	教科への興味・関心の状況を具体的に把握している。
	学習内容への興味	本教材への興味・関心の状況を具体的に把握している。
	Q質問内容	Qあなたは社会科の学習が好きですか。
	*ねらい	Qその理由は(記述)
		*社会科への興味・関心の状況を具体的に把握する。
		Qあなたは地理の学習が好きですか。
		Qその理由は(記述)
		*地理分野への興味・関心の状況を具体的に把握する。
		Qあなたは、三股町について興味・関心がありますか。 *身近な地域(教材)への興味・関心の状況を具体的に把握する。
		Q三股町について、知っていることを書いてください。
		項目 【自然】【産業】【歴史・文化】【町の取り組み】【その他】
		*身近な地域素材への興味・関心の状況を具体的に把握する。
	学習状況 【授業前】	学習の基礎となる事項の定着度を具体的に把握している。
	レディネステスト	復習プリントの実施
	*ねらい	*地理の学習の基礎となる事項(単元での学習事項への興味・関心、人口に関する知識。
宝		ラフの読み取り)の定着度を具体的に把握する。
実態把握力	学び方	学習への取り組みの姿勢(学習習慣、態度等)を把握する。
握	【授業前】	学習方法や形態などの、これまで経験したことのある学習の仕方(グループ学習やコンピ
力		ータを使った学習など) を具体的に把握する。
	Q質問内容 *ねらい	Qあなたは「なぜ」「どうして」と思いながら、社会科の授業に参加していますか。 *学習への取り組みの姿勢(学習習慣、態度等)の把握
		Qあなたは社会科の授業で、分からない問題があったときにどうしますか。
		ア)自分で調べる。
		イ)先生や友達に聞く。
		ウ) そのままにしておく。
		*問題解決的な学習における、取り組みの姿勢(学習習慣、態度等)の把握
		Qあなたが社会科の授業で調べ学習をするときに、どんな方法で調べると分かりやすいで
		か。(自由記述)
		*これまで経験したことのある学習の仕方(グループ学習やコンピュータを使った学習
		ど)を具体的に把握する。
		Qあなたは社会科の授業で、どんな学習の仕方が好きですか。
		【当てはまるもの全てに○をつけてください。】
		ア)一人で調べて(考えて)学習する。
		イ) グループで調べて(話し合って)学習する。
		ウ)先生の説明を聞きながらみんなで一緒に学習する。 *これまで経験したことのある学習形態を具体的に把握する。

	Qあなたは社会科の授業に参加して「分かってうれしい」「できてうれしい」と感じたこと
「分かる喜び」 「できる喜び」	がありますか。
	Q 「ある」と答えた人に聞きます。それは、どんなときですか。 (記述)
	*研究仮説検証のために、「分かる喜び」「できる喜び」に関する生徒の意識を把握する。

*P5の【表1 授業力に関する質問内容一覧】に関連して表記している。

(イ)事後アンケート

授業力	観点	質問内容・ねらい
	教材化 教材開発	児童生徒の能力や興味・関心等に合った教材,地域素材を生かした教材開発をしている。
授業設計力	Q質問内容 *ねらい *数材・教具	Q「三股町の取り組み」の学習に興味・関心をもって取り組むことができましたか。 Qそればなぜですか?(自由記述) *身近な地域素材の活用により興味・関心、意欲をもたせることができたかを検証する。 Q「宮崎県の人口推移」と「三股町の人口推移」の資料(グラフ)を比べたとき三股町の人口が増加していることに疑問を持ちましたか。 *異なる地域の比較によって知的好奇心が喚起できたかを検証する。 Q「三股町の人口推移」の資料(グラフ)を見たとき人口増加の理由を「調べてみたい」という気持ちになりましたか。 *既習事項と未習事項、簡単なものと難しいものの提示によって知的好奇心と解決への意欲が高まったか検証する。 効果的な資料や教具等を準備、工夫している。
	Q質問内容 *ねらい	Q「三股町の人口増加の理由」について考えるとき、用意された資料から「調べてみよう」 という気持ちになりましたか。 *自力解決のための資料として活用できるよう工夫されていたか検証する。
	教材・教具の活 用	児童生徒の実態に応じて,効果的に教材・教具を活用している。
授業展開力	Q質問内容 *ねらい	Q「ヒントコーナー」を活用しましたか。 Q「はい」と答えた人は、どのようなことが役に立ったか記入してください。(自由記述) *個人差へ対応し、解決への見通しをもたせ、生徒に満足感をもたせることができたかを検証する。 Q「三股町の人口増加の理由」のについてあなたが「分かった」と感じたのはいつですか。 1つだけを選び、番号に○を付けましょう。 【 1 】 一人で調べて(考えて)学習しているとき 【 2 】 ヒントコーナーを活用したとき 【 3 】 友だちに教えてもらったとき 【 4 】 班内で発表し合っているとき 【 5 】 全体の場で発表しているのを聞いたとき 【 6 】 先生の説明を聞きながらみんなで学習しているとき 【 7 】 最後まで分からなかった。 *どの段階で学習課題の解決を図ることができたかを検証する。
	・る喜び」 ・る喜び」	Q今日の社会科(地理的分野)の学習で「分かってうれしい」「できてうれしい」と思いましたか。 *そればなぜですか。(自由記述) *研究仮説検証のために、「分かる喜び」「できる喜び」に関する生徒の意識を検証する。

*P5の【表1 授業力に関する質問内容一覧】に関連して表記している。

ウ 授業の構想

「教材・教具の工夫の視点について」で述べた具体的な手立てを,「手立ての理由」「期待する生徒の姿」とともに以下のようにまとめた。

【表11 教材・教具の活用についての手立て】

手立て		手立ての理由	期待する生徒の姿
1	身近な地域素材の活用 福岡県,宮崎県,三股町の データ (導入・展開段階)	・ 課題を提示する際に身近に感じるものとして、生徒が住んでいる三股町の事象(人口) について学習することで、地理的分野に興味・関心が低い生徒の意識を高めることができる。	日本や宮崎県において, なぜ地域の人口
2	異なる地域の比較 ① 福岡県と宮崎県の人口の推移(増減) ② 宮崎県と三股町の人口の推移(増減) (導入段階)	県を比較させる。さらに, 宮崎県と地	地域の人口推移を表 した資料を関心をも って比較する生徒 ・ 資料を比較するこ とで、人口の推移の
	資料の活用	るということに関しては、多くの生徒が予想できていないとらえられるので生徒の知的好奇心を高めるメリットがある。 ・ 三股町の取組や変容等に関する資料	
3	(導入・展開段階)	を厳選して生徒が活用しやすい資料と して準備することで,生徒の主体的な 自力解決の支援となる。	(予想)に対して,自力解決しようとする生徒

また,前述したが今回の中学校社会の検証授業において「教材・教具の工夫」を充実させるために「主体的な問題解決や学び合いの態度を身に付けさせる方法」として4つ設定した。「理由」「期待する生徒の姿」とともに以下のようにまとめた。

【表12 主体的な問題解決や学び合いの態度を身に付けさせる方法】

方法		理由	期待する生徒の姿
1	ヒントコーナーの設置 三股町の人口増加の理由に 対する仮説(予想)につい て調べる資料を提示する際 に,町営住宅の建設や道路 整備,支援センター等の公 共施設等の項目ごとに付箋 を貼った資料を準備する。 (展開段階)	る喜び」「できる喜び」を味わわせる	自分で立てた仮説 (予想)に対して, 自力解決しようとす る生徒
2	リトルティーチャーが 活動する学び合い (展開段階)	 生徒同士による自主的な活動とよりよい人間関係につながる。 教師に質問することに対して、恥ずかしいという気持ちなどから抵抗を感じる生徒への手立てとなる。 他に教えることで、自分自身の理解力の向上や自信につながる。 	 自主的に他に教え て、理解してもらう ことに満足感を味わう生徒 教えてもらったことで理解でき、満足感を味わえる生徒
3	班活動での学び合い (展開段階)	調べて分かったことやまとめたことを班内で発表させることで、多様な考えを知ったり、自分の考えを深めたりすることができる。	多様な考えを知ったり、自分の考えを深めたりしている生徒
4	学級全体での学び合い (展開段階)	 全体における発表の場を設定することで、班内発表では見られなかった考えを知ることができるとともに、資料の見方や使い方を深めることにもつながる。 発表を通して他者を認める場をもつことができる。 	自分の考えを述べ 他の考えにも気付く 生徒

第2学年 社会科学習指導案 地理的分野

平成19年10月30日 指導者 田原 理恵

① 単元名

世界と日本の人口

② 単元の目標

○ 現在の日本の人口構成や人口分布が大きく偏っていることに関心をもち、少子高齢化、過 疎・過密がもたらす社会的な課題について意欲的に学習しようとすることができる。

(社会的事象への関心・意欲・態度)

- 世界の人口増加地域を知るとともに、その地域の人口抑制政策や問題点について考えるとともに、日本においては人口分布における過疎と過密が、暮らしの上にどのような課題をもたらしているかを学習し考察することができる。 (社会的な思考・判断)
- 地域ごとの人口構成の特色を考察するために人口ピラミッドを描いたり、分布図を作成したりすることができるとともに、過疎・過密地域の特色を考察するために各種の情報を収集、 選択して活用できる。 (資料活用の技能・表現)
- 世界の人口分布は都市や工業の発達した先進工業国とアジアの稲作地帯に集中していることに気付くとともに、日本でも過疎・過密地域があり、人々の暮らしに大きな影響を与えていることを理解し、その知識を身に付けることができる。

(社会的事象についての知識・理解)

3 指導観

○ 本単元は、学習指導要領の内容「(3)世界と比べて見た日本」の小項目「(イ)人口から見た日本の地域的特色」より構成したもので、わが国の地域的特色を人口の面から追究し、理解させることを主なねらいとしている。

19世紀後半に10億人であった世界の人口は、1960年代に30億人、1987年には50億人に、1999年、ついに60億人を突破し、2050年には89億人に達すると予想されている。このような20世紀後半以降の急激な人口増加には様々な要因があるが、栄養状態の向上、医療技術の進歩による乳幼児死亡率の低下、さらには農業生産技術の発達による食料生産の増加などが挙げられる。

特に、アジアやアフリカ、南アメリカ地域の人口増加は著しく、これらの地域には世界人口の半数以上が集中している。このように、人口増加の多くを発展途上国が占めていることによって、貧困の増加、食糧不足などの問題が発生している。アジア地域では今後も経済成長が続くと推測されているが、一人当たりのGNPは依然として低い状態であり、貧困問題は解決されずに残ると考えられている。

日本の人口数は世界で10番目に多いが、2004年のピークを境に、翌年の国勢調査では前年度から22000人減少し、約1億2800万人となった。医療技術の向上により高齢化が進んでいるが、価値観の多様化等を背景に、少子化ともなっている。また、地理的な面や産業の偏りにより過疎・過密が起こり、解決すべき問題の一つとなっている。

○ 本学級の生徒は、これまでに地理的分野の学習で「世界と日本の地域構成」と「地域の規模に応じた調査」を学習している。これらの学習を通して、日本では大都市圏を中心に過密化となっていることやそれによって問題が生じていることも学んでいる。

また、社会科に関する意識調査は、次のような結果であった。

(2007年9月第2学年実施 調査人数36名)

① 社会科の授業は好きですか。

大好き	1名	・ おもしろいから
好き	26名	調べたりするのが好き
		多くの国のことが分かる
		資料を見るのが好き
		・ 歴史上の人物のことをもっと知りたい
あまり好きでない	8名	暗記することが多い
		暗記することが苦手だ
きらい	1名	・ 覚えることが大変

② あなたは地理の授業が好きですか。

のなたは地性の技术が		<i>y</i> № 6
大好き	4名	国や県のことを知ることができる
		・ 地域や場所を覚えるのが好き
		・ 世界の国々のことを覚えたり、相手国との関係な
		どを知ったりすると楽しい
好き	12名	苦手だけどおもしろい
		資料を見るのが好き
		他の国のことがよく分かる
		・ よく分からないことを習える
あまり好きでない	20名	歴史はマンガがあるから分かるが、地理は難しい
		・ 難しいから
		・ 調べることが苦手
		・ 時差や縮尺の計算が苦手だ
きらい	0名	

③ あなたは疑問(「なぜ」「どうして」)をもって、社会科の授業に参加していますか。

いつも思う(4名) ときどき思う(23名) あまり思わない(6名) 思わない(3名)

④ あなたは社会科の授業で分からない問題があったときにどうしますか。

ア) 自分で調べる (15名)

イ) 先生や友達に聞く (15名)

ウ) そのままにしておく (6名)

⑤ あなたは社会の授業に参加して「分かってうれしい」「できてうれしい」と感じたこと がありますか。

ある	19名	・ 人口密度などの計算が解けたとき
		よく分からないところができたとき
		難題が解けたとき
		・ 調べていることが分かったとき
		・ 資料を見て何かを予想し、それが当たっていたとき
		自分の考えと先生の考えが同じだったとき
		今まで知らなかったことを知ったとき
		ずっと疑問だったことが分かったとき

⑥ あなたが社会の授業で調べ学習をするときに、どんな方法で調べると分かりやすいですか。(自由記述 複数回答)

教科書(20名) 資料集(23名) 地図帳(3名) 本(8名) インターネット(11名) グループ(2名)

⑦ あなたは社会の授業で、どのような学習の仕方が好きですか。(複数回答)

ア) 一人で調べて (考えて) 学習する

(5名)

イ) グループで調べて(話し合って)学習する (22名)

ウ) 先生の説明を聞きながらみんなで学習する (17名)

アンケートから、学習で解決しなかったことに対し何らかの方法で解決させようと取り組んでいる生徒が多いことが分かった。しかしその反面、3割弱の生徒は授業に疑問をもって臨んでいないことや、半数近くの生徒が「分かってうれしい」「できてうれしい」という達成感を味わったことがないということも分かった。これは、一斉学習が多いことに原因があるのではないかと考える。また、社会科の授業を好む生徒が8割近くを占めているのに対し、地理的分野の授業を好んでいる生徒は半分にも満たない。地理的分野に対して多くの生徒が「難しい」と苦手意識をもっていることが伺える。その理由に「調べることをが苦手だから」と数名が述べているが、歴史的分野と比べ、調べる際に活用する資料も質・量ともに、多岐にわたっているからではないかと思われる。また、レディネステストの結果を見ると、「資料活用の技能・表現」に個人差が大きい。グラフの数値を読み取ることはできるが、どのように活用すべきかといったことに結びついていないからと考える。

○ そこで本単元の指導にあたっては、「教材・教具の工夫・活用」という視点から、地図や表、グラフ等の資料を提示し、生徒の思考・判断の流れやその深まりを支援できるように活用したい。既習事項として、世界や日本の自然や地域の特性を生かした産業の学習も終えている。それらの学習が本単元の学習の根本にもつながることをとらえせるためにも、それらの学習で使用した資料を再確認を含め活用する。特に生徒に個人差が見られた「資料活用の技能・表現」に関しては、グラフを重ねたり、資料の意味するものを教師側から説明したりするなどの手立てを行い、人口分布図や人口ピラミッドなどの資料を的確に読み取れるようにしたい。

本時における内容としては、導入で、修学旅行で訪れた福岡県と本県、また、生徒たちの暮らす三股町の人口推移を比較させることで興味・関心を引き出す手立てとしたい。さらには、生徒から引き出した興味・関心を、人口減少が続く日本の中で、「三股町はなぜ人口が増加しているか」という課題意識につなげたいと考える。生徒に「三股町の人口を増加させるために、町はどのような取り組みをしているのか」という学習課題で、個々に仮説を立てさせ、それぞれの仮説に沿って調べさせる。調べる際に使用する資料は、町の広報誌や国の施策等をまとめたものを活用し、それらの資料は、生徒が立てると予測される仮説に沿って項目ごとに準備する。その際、資料選択や資料活用を苦手とする生徒に対する手立てとして、関係している項目(ページ)には付箋を貼ったり付箋に補足説明を記入したりして、学習の手立てとしたい。

また「主体的な問題解決や学び合いの態度を身に付けさせる方法」という点では、生徒の 多様な意見を引き出すために、教科書や資料集以外の補助資料を準備したり、班内での発表 や全体での代表者の発表を通して互いに意見交換し、練り上げる場を設定したりする。これ らの手立ては、社会科の目標にもある多角的・多面的なものの見方や考え方の育成にもつな がる。

本時における内容としては、生徒が立てたそれぞれの仮説について調べまとめる活動を取り入れている。調べたりまとめたりすることを苦手とする生徒には、教師による個別の指導をしたり、自分自身の活動が早く終わった生徒に支援をするように指示をしたりしたい。調べたことはまず班内で発表させるが、自分が調べたこと以外にも人口増加の背景があるということ、つまり様々な背景が人口増加につながっているということに気付かせ、学び合いが深まるようにしたい。また班内での発表は、大勢の場で発表することを苦手とする生徒への手立てになるとも考える。その後、学級全体の発表を行い、個→班→全体の過程の中で、調べたことが一層深まったり確認につながったりし、主体的な問題解決や学び合いに結びつくと考える。

生徒たちはアンケートでも分かるように、歴史的分野の学習に比べ、地理的分野の学習を 好んでいるものが多いとは言えない。また先にも述べたように、資料活用能力の個人差が大 きい。さらには、「分かってうれしい・できてうれしい」といった達成感を味わったことの

ある生徒も多いとは言えない。そこで、生徒に地理的分野の学習の楽しさや分かる喜びやで きる喜びを味わわせたり、資料を読み取る力を育成したりするためにも、自分たちの住んで いる町について調べることを通して、生徒の意識を変え、力を付けたいという考えから本時 の学習を取り入れた。また終末では、これまでの学習を生かして、三股町がさらに活性化す るための取組を発想させたい。

④ 単元の指導計画と評価計画 〔指導 全6時間(本時6/6)〕

四 平元の指导i	計画と評価計画	1相等 王	0 时间(本时0	/ 0/)	
題材	主な学習活動及び	社会的事象への	社会的な	資料活用の	社会的事象への
	主な学習内容	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
1 世界の人口分布とその推移・ 小たよったハウ分布・ 増加	○ 関最急ので、人発ア中しるの、 にがでそい。 の、集を取に の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、	世界に関いする。人心問考このも点よがのも点よが変ちにうで	世図の口るこ 人こじる かーぜてえ。 すて考る りーぜてえ。 すて考る りーせるこ かいに問が がに問が がに問が がに問がが がに問が かいしゅう しとるこ	世界の増見特とができる。	
2 日本の人口と 人口 日本の人口 ・ 日本の人口 ・ 日本の様 ・ 人の変化 ・ 子化	○ おおり は は は は は は は は は は は は は は は は は は	率ッら的化がとれやド,に社進にら人等日見会ん気が日の本てでで付ど資は,少いきのう料世高子る,ようれかにのがいるが、のいかののではどいない。	ロの特色を考察密 し、過とである 地域とて考える	停をのドれるま口歴類き読で滞予類をぞ国たピ史型てみき・測型描れが,ラ的をい取る人すピいにあ日ミにたるる人すピいにあ日ミにたるる、は三ミ,応このドつっとと減三ミ,応このドつっとと少つッそすと人ものてをが	
3 かたよる日本 の人口分布・ 人口分布の 特徴・ 大都市への 人口移動	○ 日本では平野部一の 人口間域となる。 ・ 本でがしている。 ・ 本でがしている。 ・ 本でがしている。 ・ 本で、の、の、の、の、の、の、の、の、とをでいる。 ・ 本で、の、の、の、の、で、が、の、で、か、とをでいる。 ・ で、か、といるで、は、か、は、か、は、か、は、か、は、か、は、か、は、か、は、か、は、か、は、		よ人いり 集中にて取い	国内の人口分布	市圏への不して、日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日
4 過密の問題と その取組 ・ 日本の過密 ・ 地域 下市と過 密の問題	→ 大田ではに滞題理 大問でなに 大密交刻こ をるのでは、 大密交列こ をるのでである。 大密交列こ をるのでである。 大窓交列こ をるのでである。 大部でののである。 大部でののでする。 大がそれる。 大がそれる。 大がそれる。 大がそれる。 大がそれる。 大がそれる。 大がそれる。 大がそれる。 大変る。 大がそれる。 大変る。 大がでののである。 大がなる。 大がである。 大がである。 大がなる。 大がなる。 大がなる。 大がでなる。 大がなる。 大がなる。 大がなる。 大がなる。 大がなる。 大がなる。 大がなる。 大がなる。 大がなる。 大がなる。 大がな。 大がなる。 大がなる。 大がなる。 大がなる。 大がな。 大がなる。 大がなる。		各資料をもとに 大都市が抱えて いる課題や解決	大都市の抱えるの 抱きを教 りまるのの りまる。 と りまる。 と りまる。 と りまる。 と りまる。 と りまる。 りまる。 りまる。 りまる。 りまる。 りまる。 りまる。 りまる。	日抱題要策と を を を を を を を で き る 解 お 理 き る の る 解 お 理 き る 。 る の る 解 お す る 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。
5 過疎の問題と その取組 ・ 過呼の問し と対おこし ・ 対明 ・ 財組む ・ 財組む ・ 町	○。 「東地球を は、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	の解決策につい	る要因や課題を		す人々の様々な新しい取組につ
6 三股町の取組 ・ 三股町の人 口増加の背景 ・ これからの 三股町 (本時)	○ 三股町の人行政な名 一芸版町のる要は 一大政な考 一大政な考 一大政な考 一大政な考 一大政な考 一大政な考 で、このと で、このに ののと ののと ののと ののと ののと ののと ののと の		加の背景には, どのようなこと	短い 単い で で が で が で が で が で が に す しな こ の 景係択分る の ま の ま の と き める。 の ま の た の と も める。 の も める。 の も める。 の も のる。 の も のる。 の も のる。 のる。 のる。 のる。 のる。 のる。 のる。 のる。	

⑤ 本時の学習目標

- 三股町の人口増加の要因を調べ、考えたり判断したりすることができる。
- 三股町の人口増加について、関係資料を活用して調べ、まとめたり発表したりすることができる。

6 学習過程

	- 日 旭 生			
段階	学習活動	主な発問・指示	指導上の留意点	資料等
	【 】は学習形態	・は予想される発言	☆は授業の視点に直結する手だて	
導入				
3 分	いてグラフを読み取 る。 【全体】 ○ 宮崎県と福岡県 の人口推移のグラ フを比較し、宮崎	移のグラフを比べて, ど のような違いに気付きま	の福岡県と比較させる。また、次活動の関心につなげるために、宮崎県の人口が減少していることも確認さ	宮崎県の 人口推移, 人口ピラ ミッドの
4分	のグラフを見て,学 習課題を確認する。 【全体】		かせ,なぜ人口が増加して いるかということに疑問を もたせる。	人口推移
	三版画の人口を増ているのだろうか。	がいさせるために、 町はと	のような取り組みをし	
展開 10 分	加させるために,町 が取り組んでいるこ とを考え,仮説(予 想)を立てる。 【個】→【全体】 ○ まずは個人で理	口増加につながっているのかを考え、仮説を立てましょう。 ・ 税金が安い。 ・ 町営住宅をたくさん 建てている。 ・ 道を整備している。 ・ イベンにいる。 ・ 「一位している。 ・ 町の図書館や体育館	ロ増加の背景にあるものを 考えさせ、個人の考えがせ とまったら意見発表をさる。 ○ 出された意見を分類して 板書し、仮説を立てるしてと のできない生徒に対しては 出された意見を参考にする	— Þ
	○ 仮説を調べるた めには何を使えば よいかを考える。		☆ 調べる手段としてあげられる資料を準備し、それらを基に調べ、まとめることができるようにする。	広報誌

15 分		資料を基に調べ、まとめ	☆ という では では では では できません では できません では できません できません できません できませる できません いっこう にも できません いっこう にも できません いっこう にいっこう にいっこう はい いっこう にいっこう できません いっこう にいっこう にいっこう はい いっこう にいっこう にいい いっこう にいっこう にいっこう にいっこう にいっこう にいっこう にいっこう にいっこう にいっこう はい いっこう にいっこう にいっこう にいっこう にいっこう にいっこう にいっこう にいっこう はい いっこう にいっこう にいっこう にいっしん はいい いっこう にいっこう	広報誌 統計資料 ワークシ ート
7分		調べて分かったことを班 内で発表しましょう。	☆ 調べてまとめたことを, 班内で発表させ,多様な考えを知らせ,自分の考えを 深めさせる。○ 質問をさせたり,気付いたことをワークシートに記録させたりする。	
4分	6 班内の発表の後, 数名,全体発表をする。 【全体】		☆ 意図的指名を数名行い, 全体の場で発表させること で, さらに多様な考えを考 ったり, 資料の見方や考え 方を確認したりさせる。 〇 人口増加の理由は様こと に気付かせたい。 〇 人口増加が, 町の活性化 にもつながっていることに 気付かせたい。	
3 分	7 教師のまとめを聞 く。 【全体】		○ 生徒が調べたことを受けて、町の取組についての補 足説明や資料の選択や使い 方の確認を行う。	
終末 4 分		るアイデアを考えましょ	○ 根拠をもたせながらも、夢や理想を大事にし、自由に発想させる。○ 生徒が出した意見について賞賛する。	

オ 授業の記録

○ 教師の発問や生徒の様子

	数師の発問や生徒の様子		
段階	学習内容及び学習活動	教師の発問等 (授業の視点に直結する手立て☆)	生徒の様子等
導 入	1 宮崎県の人口についてグラフを読み取る。	○ さまこの ○ ☆ (身地で) ・ とも : を を で で で で で で で で で で で で で で で で で	 増えている。 (多数って反いる。 (一部では、) ・増えて反いる。 (一部では、) ・増入ないでは、) ・人口爆発(多数) ・減一部でに、)
	三股町の人口を増加させ	るために、町はどのような取組をして	
展開	3 三股町の人口を増加させるために、町が取り組んでいることを考え、仮説を立てる。	 ○ ワークシートを配ります。 ○ 町の取組の予想をして,仮説を立ててください。 ○ 例を黒板に示します。この書き方で,仮説を立ててワークシートに書き込んでみてください。 ○ こんなことをしたら三股町に住みたいと思う人が増えるんじゃないかというようなこと。(助言) ○ どういう所だったら自分は住みたいですか。(助言) (上○2つは,机間指導中の助言) 	・ 学習課題の記入・ 例を熱心にのぞき込む。・ ワークシートへの書き込みを始める。

- 4 資料を使って調べまとめ る。
 - を基に仮説検証に適した 資料を選択し,分かりや すくまとめる。



5 分かったことを班内で発 表する。



- 予想を自分から発表できる人? | ・ 0人
- このように書いている人を見か けましたよ。
 - 施設,住宅地、PR、ゴミの 収集, 観光や自然, 職場の増加, 道路整備
- S君は、ニュータウンという言 葉を使ってくれています。
- まだの人は、これらを参考にも う少し考えてみてください。
- 今日は資料を使って仮説につい ・ 反応が少ない。 て調べましょう。
- 地図や広報誌等の資料 今日は、三股町の広報誌を使い ます。この広報誌と別冊のプリン トで自分の仮説がどのくらい正し いか調べてみましょう。
 - ☆ 広報誌等の配布(資料の活用)
 - 一人一冊あります。その中にチ ・ 配られた広報誌 ェックをしていいです。
 - どこを見たらいいのか分からな い人は、ヒントコーナーに分かり やすく付箋を付けています。自由 に見に来てください。
 - ☆ 観点別に示した資料の提示 (資料の活用)
 - ☆ ヒントコーナーでの資料提示 (資料の活用)
 - 机間指導をしながら助言をし たり、資料の各箇所を示したり する。
 - この時点で、どこまで調べられ たか班内で発表してみましょう。
 - 発表の仕方で悩んだ人は、手本 になるものを黒板に貼っておくの で参考にしてください。
 - グループごとに助言をする。
 - グループ内の一人一人の発表 を聞いてあげる。
 - 早く終わったグループは、「三 股町をさらに良くしよう」の視点 でワークシート下段に記入してみ ましょう。
 - グループごとに助言をする。

- 友だちの考えに 関心を示す。
- 友だちの考えを ヒントに書き出す 生徒も出てくる。

- に関心を示す。
- 作業を始める。
- ・ 広報誌に興味を 示すが作業はなか なか進まない。
- ・ ヒントコーナー へ動く生徒がいな い。
- 助言を受けて書 き出す生徒も出て くる。
- ・ 班づくり
- 進行表を使って 少しずつ会話が始 まる。
- 表情が和らぐ。
- 友だちの考えを 聞いた後書き出す (書き足す) 生徒 も出てくる。
- ・ 聞き手を意識し ながらの発表は, 徐々にスムーズに なってきた。

開

仮説に対する考えをうまくま とめている生徒のチェックを進 める。 「三股町をさらに良くしよう」 6 班内の発表後,数名,全 の視点の記入もチェックする。 体発表をする。 ○ では, 机を前に向けてください。 ○ 発表してほしい人が2人いるの ・ 班解体 で、発表してもらいましょう。 ○ 環境美化をすることで住みやす ○ M君 ゴミの収集が い町づくりにつながっているので 関係 (仮説) しょうね。 ・ 町内での環境 ・ 環境美化が町づくりに役立っ ていることを補足する。 美化について調 べた。 ○ 施設の中でも子育てのための施 (広報誌より) ○ I 君 設に注目しましたね。乳幼児の医 ・ 施設が関係 療費無料や子育てに悩んでいる方 々の無料相談もありますね。 (仮説) ・ 子どものための施設や補助制 子どもの施設 展 度などについて補足する。 に力を入れてい る。 開 ○ 人口ピラミッドを見ましょう。 (広報誌より) ☆ 人口ピラミッドの提示 ○ 一班で「青年が (異なる地域の比較) 多い」ことへの気 手前の班は気付いてくれていま 付きが見られた。 した。三股町の特徴は、県と比較 して青年が多いことです。 7 教師のまとめを聞く。 三股中学校の生徒は実際多いで すね。 ○ みなさんが仮説としてあげてい た「道路の整備」「観光やスポー ツ」「ニュータウン」「施設の充実」 などは、どれも町の取組として大 切なことだと思います。 ○ みなさんの中で、高齢者福祉施 • 複数举手 設に職場体験しに行く人もいます ね。それは、三股町内に高齢者福 祉施設が充実しているからでもあ りますね。 8 調べたことや他の生徒の ○ 最後に「三股町をさらに良くし ○ N君 三股町の良い 発表を受け、今後、さらに よう」の視点で2人の人に発表し ところをテレビ てもらいます。 三股町を活性化するには, 終 でPRしたい。 どのようなことをしたらよ

○ Sさん

たい。

若い人が楽しめる施設を作り

いかを考え発表する。

末

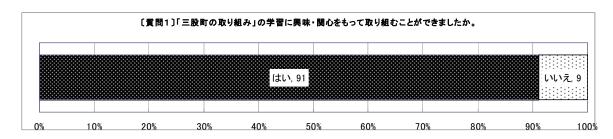
オ 結果及び考察

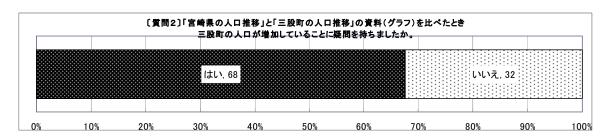
(ア) 事後アンケートの結果

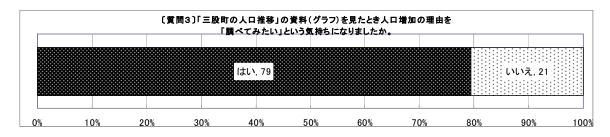
対象者:三股町立三股中学校 第2学年 36名

- a 授業設計力
 - (a) 教材化·教材開発

児童生徒の能力や興味・関心等にあった教材、地域素材を生かした教材開発をしている。

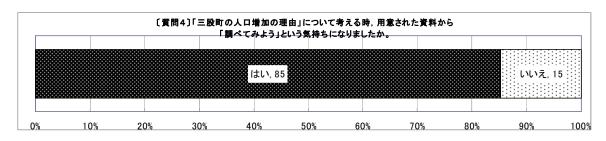






(b) 教材·教具

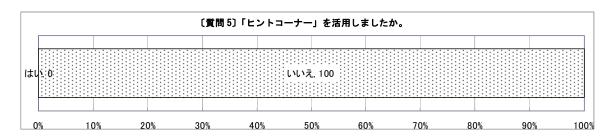
効果的な資料や教具等を準備、工夫している。



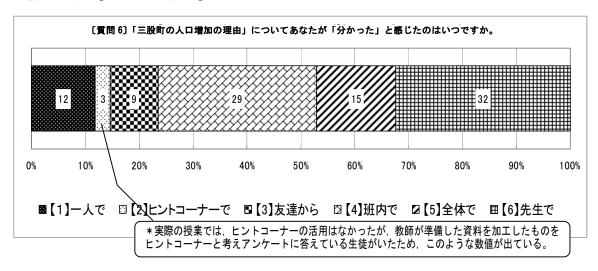
b 授業展開力

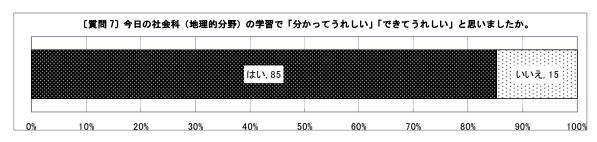
(a) 教材教具の活用

児童生徒の実態に応じて、効果的に教材・教具を活用している。



(b)「分かる喜び」「できる喜び」





*アンケートの視点は、P5の【表1 授業力に関する質問内容一覧】に関連して表記している。

(4) 事前の実態調査及び事後のアンケートの比較から

「地域素材の活用」「比較」「資料の活用」の3つの手立てを行うことによって、「分かってうれしい」「できてうれしい」につながったかを「『分かってうれしい』『できてうれしい』と感じた生徒数の推移」によって比較することとした。また、「社会科に関する意欲の変容」「問題が解決できた段階と『分かる』・『できる』の関係」の視点でも検討することとした。

a 「分かってうれしい」「できてうれしい」と感じた生徒の推移 授業の前後を比べて、「分かってうれしい」「できてうれしい」と感じた生徒数の変容 は以下の通りであった。【表13】

【表13 「分かってうれしい」「できてうれしい」と思った生徒数の推移】

The state of the s	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
「分かってうれしい」「できてうれしい」と思ったことがあるか。	割合 (%)
これまでは思ったことがなかったが、授業後に思った。	48
これまでも思ったことがあったが、今回も思った。	35
授業前も授業後も思わなかった。	10
これまでに思ったことがあったが、今回は思わなかった。	7

【表13】からも分かるように、今回の授業で「分かってうれしい」「できてうれしい」と感じることができた生徒は、「これまでは思ったことがなかったが、授業後に思った。」と「これまでも思ったことがあったが、今回も思った。」を併せて83%にのぼった。その中でも、今まで「分かってうれしい」「できてうれしい」とは思わなかったのに、今回の授業で思った生徒は48%であった。その主な理由は以下の通りである。【表14】

【表14 「分かってうれしい」「できてうれしい」と思った理由】

- ・ 今までの学習では分からなかった未知のことが、分かるようになった。 (三股町のこと、国や県の取組、道路整備など)…19名
- ・ 疑問を話し合いで解決できた。…3名
- ・ 授業が分かりやすく楽しかった。…1名

「分からないことが分かったからうれしい」と答える生徒が多く、その中には三股町のことが分かってうれしいという生徒も4名見られた。また、班や全体での話し合いを取り入れながら学習を進め、解決につながったことも「できた」「うれしい」という気持ちの理由として挙げられていた。

地域素材を学習に組み込むことは生徒の課題意識を高め、その結果、「分かってうれしい」「できてうれしい」という気持ちにつながったと思われる。

b 社会科に関する意欲

【表15】は「疑問(なぜ,どうして)をもって、社会科の授業に参加しているか」という事前調査と「三股町の取組の学習に興味・関心をもって取り組むことができたか」という問いに回答した人数である。

【表15 興味・関心に関する事前調査と事後アンケートの比較】

三股町の取組の学習に興味・関心をもって取り組むことができたか	割合 (%)
地理の授業はあまり好きではなかったが (きらいを含む), 今回は, 興味・関心をもって取り組むことができた。	59
地理の授業は好き(大好きを含む)で、今回も、興味・関心をもって取り 組むことができた。	32
地理の授業は好き(大好きを含む)だが、今回は、興味・関心をもって取り組むことができなかった。	3
地理の授業はあまり好きではなく (きらいを含む), 今回も, 興味・関心をもって取り組むことができなかった。	6

【表15】からも分かるように、今回の授業で学習に興味・関心をもって取り組むことができた生徒は、「地理の授業はあまり好きではなかったが(きらいを含む)、今回は、興味・関心をもって取り組むことができた。」と「地理の授業は好き(大好きを含む)で、今回も、興味・関心をもって取り

組むことができた。」を併せて91%にのぼった。その中でも、地理的分野の授業はあまり好きではなかったのに、今回の授業で興味・関心をもって取り組んだ生徒は59%であった。その主な理由は以下の通りである。【表16】

【表16 興味・関心をもって取り組むことができた理由】

- ・ 自分の住んでいる町が気になった。三股町の取組を知りたい。…24名
- ・ 分からないことがたくさんあった。…4名
- ・ 三股町の人口が増えているのが不思議だった。…1名
- ・ 自分の町のことを考えたことがなかった。…1名

「自分の住んでいる町が気になった」「三股町の取組を知りたい」と答える生徒が多く, 三股町の人口推移を教材化したことで興味・関心が高まったことが伺える。また,宮崎県 の人口が減っているのに対し,三股町の人口は増えているというグラフの比較を通して, 疑問を抱いた生徒もいた。

「自分の住んでいる町が気になった」ということからも、地域素材を授業に生かすことで生徒の興味・関心を高めることにつながると言える。また、「三股町の人口が増えているのが不思議だった」「分からないことがたくさんあった」という記述から、事象提示の際、比較検討できるような工夫を行うことで、学習への興味・関心が高まることが分かる。今回は、日本は人口が減っているという既習事項の内容とは一見、相反する三股町の人口増加に未知の理由が存在するというつながりや福岡県、宮崎県、三股町のグラフの比較による提示などを行ったことが効果的であったと思われる。ただし、単に地域素材を授業に生かすだけでは不十分であり、その地域素材を使って学習するための必要感や切実感をもたせるような工夫が併せて大切である。

c 問題が解決できた段階と「分かる」・「できる」の関係

【表17】は、今回の検証授業と同じ場面を別のクラスで行い、事後アンケートをとり、三股町の人口増加の理由を、生徒はどの活動の段階で分かったのかということと「分かる喜び」「できる喜び」を感じたかということを整理したものである。

このクラスでは「教師がまとめたとき」「一人で考えたり調べたりしたとき」「ヒント資料コーナーを活用して調べたとき」の順に、課題を解決できた生徒が多い。また、ほとんどの場合、「分かってうれしい」「できてうれしい」と感じていた。

これらの結果は、ヒント資料コーナーの紹介を丁寧に行ったり、休み時間にも自由にヒントに触れることができる環境を作ったりしたこと、一人で考えたり、調べたりする時間が確保されていたからだと思われる。

【表18】は、今回の検証授業を行ったクラスの同様の集計表である。

「教師がまとめたとき」「班で話し合ったとき」の順で課題を解決できた生徒が多い。また、ほとんどの場合、「分かってうれしい」「できてうれしい」と感じていた。これらの結果は、班活動の時間が長かった

【表17】は、今回の検証授業と同 【表17 問題が解決できた段階と「分かる」・「できる」の関係】

2年A組 三股町の人口 分かったか	1増加の	の理由が	がいつ
	「分かっ	ってうれし	.V)」「で
生 徒 の 活 動	きてうれ	ルルリ と!	感じたか
	はい	いいえ	合計
一人で考えたり調べたりしたとき	7	2	9
ヒント資料コーナーを活用して調べたとき	6	0	6
友だちから助言してもらったとき	3	1	4
班で話し合ったとき	4	0	4
全体の発表のとき	2	0	2
教師がまとめたとき	10	1	11
最後まで分からなかった	1	0	1
合 計	33	4	37

【表18 問題が解決できた段階と「分かる」・「できる」の関係】

【表18 問題が解決できた段階と「分か	<u>る]・「で</u>	<u>さる]の</u>	関係 』	
2年B組 三股町の人口		1増加の理由がいつ		
分かったか				
	「分かってうれしい」「で			
生 徒 の 活 動	きてうれ	きてうれしい」と感じたか		
	はい	いいえ	合計	
一人で考えたり調べたりしたとき	4	1	5	
ヒント資料コーナーを活用して調べたとき	0	0	0	
友だちから助言してもらったとき	3	0	3	
班で話し合ったとき	7	3	10	
全体の発表のとき	4	1	5	
教師がまとめたとき	11	0	11	
最後まで分からなかった	0	0	0	
合 計	29	5	34	

り、話し合いマニュアルを活用したりしたことが影響したと思われる。

このことから、教師が生徒の活動を支援する手立てを行ったり、じっくりと活動する時間を確保したりすることで、自らの力で解決することにつながる。また、教師がきちんとまとめを行うことで、生徒は自分の考えが正しかったのか確認することができる。これらのことが、「分かる喜び」「できる喜び」を感じることにつながるのではないかと考える。

ここで,第1回の検証授業で考えた,見通しの段階で,教師の支援をあえて少なくすることで自力解決の道をつくり,「分かる喜び」「できる喜び」を味わわせることができるという点を併せて考えると以下のようになる。

見通す段階では、生徒にすぐに答えに直結するような手立ては行わず、不満自覚を高める。 しかし、生徒が自力解決を行う場面では活動を意欲的に行うことができるように助言したり、 時間を確保したりすることで、高まった疑問を解決していき、その結果、「分かってうれしい」 「できてうれしい」という気持ちにつなげることができる。教師の助言や補助のメリハリをしっかりとして、支援する場面、自力解決させる場面を作ることが大切である。

また、教師のまとめも重要で、特に中学生という段階を考えると、「何が分かったのか」「自 分が考えたことは正しかったのか」について確信をもたせることが、成就感や達成感につなが り大切である。

(ウ) 教師の手立ての考察

本実践の検証の一つとして, 生徒の主体性という視点で見たとき, 教師の手立てを受けて どのような反応をみせ、どのように変容するかを探ってみた。

○ 抽出生徒について

日頃の社会の授業の中で, 教科担任と検討し, 以下の生徒を抽出した

- 主体的に活動する姿が多く見られる生徒…生徒A
- ・ 活動が積極的とも消極的とも言い難い生徒…生徒B
- ・ 活動が消極的な姿が多く見られる生徒…生徒 C

3人の授業中の態度やつぶやき、表情等は以下の通りであった。【表19】

【表19 抽出生徒の授業の様子】				
手立てとねらい	生徒A	生徒B	生徒C	
	三股町のグラフ	• 配布されたワー	仮説は立てきら	
	を真剣に見る。	クシートの課題に	ずに、板書された	
	・ 都城市との比較	真剣に取り組んで	ものを写した。	
	に反応していた。	いるが, 仮説がな	・ 配布されたワー	
	配布されたワー	かなか立たず、プ	クシートの課題に	
	クシートの課題を	リントのグラフや	真剣に取り組んで	
三股町の人口という	真剣に考え、自分	黒板を見て考えて	おり,活性化策も	
地域素材を活用した	なりの仮説を記入	いる。	自分なりの答えを	
小単元を設定したこ	していた。		出して <u>い</u> た。	
とで,生徒の興味・	・ 自分なりに出し			
関心を高める。	た仮説に不満らし	なかなか仮説が立た	思いつかないため,	
	く,悔しそうな様	ないため、様々な資	書き込むことはでき	
	子が見られた。	料を調べる様子など	ていないが、課題に	
		から, 興味・関心が	取り組もうとする姿	
	興味・関心が高まっ	高まったと思われる。	勢が見られ、地域素	
	たためと思われる。		材に関心をもったと	
			思われる。	
	・ 既習事項の確認	無言ではあるが、	福岡県のグラフ	
	で、教師がアフリ	真剣な顔で黒板に	では、余り興味を	
	カ州やアジア州の	注目しており、福	示していなかった	
	人口の状況を質問	岡県のグラフと本	が,続けて本県,	
	したとき、即座に	県, 三股町のグラ	三股町のグラフが	
	「人口爆発」とい	フを見比べていた。	掲示されると集中	
	う言葉を声に出し		して見ていた。	
	て発表した。			
福岡県と本県,三股	掲示されている			
町を合わせた問題を	3つのグラフの形			
提示することで、そ	を比較することで			
れぞれを比較させ,	違いを見出そうと			
生徒の興味・関心を	しきりに見比べて			
高める。	いた。		7 -	
			TH - HI H- 0 12 -	
	福岡県と本県、三股	福岡県、本県、三股	本県、三股町のグラ	
	町を比較し、形の違いに兼見して表え	町のグラフを見比べ	フで反応が変わった	
	いに着目して考え、	ることで、違いや特	ことから、興味・関	
	真剣に取り組んでお	徴を探し出そうとす	心が強まったと考え	
	り、興味・関心を強	る様子が見られ、関	られる。	
	くもったと思われ	心が高まったと思わ		
	る。	れる。		

・ ヒント資料コー ナーに行くまでは 至らなかったが, 広報「みまた」を 何回も細かく見返 してい<u>た</u>。



・ ヒント資料コー ヒント資料コでは サーになかまた」 エマ報「公営住宅」 中の欄を熱心 でいた。



「が説のの、これでは、これでででな関のの、これでは、これででは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、いいので

・ ヒント資料コー とこれでは 大一に行くまが、 で報「みまた」の 「公営住宅」や「ス ポーツ祭」の欄な どを繰り返し読ん でいた。

《抽出生徒の変容から見た教師の手立ての考察》

ヒント資料コーナー

を設置し,生徒に活用させたことで,自

力解決につなげる。

- 導入時に、福岡県、宮崎県や都城市の人口推移を提示した時と三股町の人口推移を提示 した時では違う反応が見られた。これは三股町という地域素材を使って場面設定をするこ とで、「自分たちの住む町」という意識が生徒の興味・関心を高めたと考えられる。また、 人口増加した理由から仮説を立て、積極的に考え話し合う姿が見られるなど、学習活動に 対する意欲が高まった。
- 修学旅行で訪れた福岡県,自分たちが住んでいる宮崎県,現在,自分たちが生活している三股町という身近な地域を比較することで,生徒がそれぞれの「違い」や「特徴」に着目し,知的好奇心を高めることで,より深い社会的な見方・考え方が出てきた。さらに,グラフという視覚的にわかりやすい教材で授業の導入を行ったことで,生徒の興味・関心を高めることができた。
- ヒント資料コーナーについては、各生徒の手持ち資料として「過去・現在の広報『みまた』」、「小学校の副読本の抜粋」、「町役場がまとめたデータの抜粋」を中心として構成したプリント集を配布した。生徒は、その豊富な資料から仮説に必要なデータを懸命に探しており、地域の資料を活用することで、生徒の学習意欲の向上につながる事がわかった。しかし、資料を読み取ることが苦手な生徒のために、ヒントコーナーを設置したが、利用しようとしなかった。これは、中学生になると教師が促したり、わからないときはヒントコーナーを活用するという学習訓練を行ったりしないとなかなか活用しない実態があり、発達段階に応じた指導や学習訓練が必要であることが分かった。支援の手立てについても今後さらに研究を深める必要がある。

(3) 検証授業を基にした学習指導モデル

本年度は、昨年度の調査研究の結果、「教材・教具」「板書」「評価」の項目において教師の意識が低いことが分かった。そこで『児童生徒が「分かる喜び」「できる喜び」を味わう授業』を目指していくために、主体的な問題解決や学び合いの学習を通して授業力を構成している『実態把握力』『授業設計力』『授業展開力』の観点の中の「教材(分析・開発・活用)」に焦点を当てて研究していくことになった。そこで、小学校第4学年の算数科(面積)と中学校第2学年の社会科(世界と日本の人口)で教材・教具に焦点を当てた検証授業を行った。その検証授業の中で、それに付随する活動や様々なポイント、留意点が明らかになってきた。

最後に、そのポイントをまとめ、また、授業前、授業(導入、展開、終末)、授業後という時 系列に沿ってその留意点を端的にまとめたものを、学習指導モデルとして構築することにした。

- ・ 十分に吟味した身近な素材の活用を図ることで、児童生徒の興味・関心を高めることができる。
- ・ 既習の学習内容を新しい学習内容と比較させることで、児童生徒の思考判断を支援したり、学習 内容のポイントをつかめさせたりすることにつながる。
- ・ 具体的な操作活動をさせることにより、児童生徒の思考の流れに一貫性をもたせ、自力解決を図らせることができる。
- ・ 思考や発表を助けるための教材・教具を開発することにより、自力解決への意欲を高めさせることができる。
- ・ 地域素材を取り入れた発展的な学習を行うことで、それまでの学習内容をさらに理解させたり確 認させたりすることができる。
- ・ 課題解決に使用する資料は、児童生徒にとって身近なものの方が活用したいという意欲をもたせることができる。また、活用を苦手とする児童生徒には、ヒントコーナーを設置したりすることも必要である。

【資料1 「分かる喜び」「できる喜び」を味わわせる授業のポイント】

ア 「分かる喜び」「できる喜び」を味わわせる授業に生かすための事前アンケートのモデル

授業力	観 点	ねらい
実態把握力	学習内容 へ興味・ 関心	教科や本教材への興味・関心の状況 把握
	学習 状況	※ レディネステストの実施 学習の基礎となる事項の定着度の把 握
	学び方	問題解決的な学習における取組の姿勢の把握 これまで経験した学習の仕方の把握 これまで経験した学習形態の把握
「分かる喜び」 「できる喜び」		「分かる喜び」「できる喜び」に関 する児童生徒の意識の把握

上記のモデルを基にして小学4年生の算数科 「面積」のアンケートの例を示す。

- 1,2「学習内容への興味」
- 3, 4 「学び方①」
- 5 「分かる喜び・できる喜び」
- 6 「学び方②」
- 7 「学び方③」



算数についてのアンケート 4年()組 名前(これはテストではありませんので、自分が思っていることを書いてください。

- 1 あなたは、算数の学習がすぎですか。 そのわけを教えてください。
- あなたは図形の学習が好きですか。

【大好き 好き あまり好きではない きらい】

【大好き 好き あまり好きではない きらい】

- そのわけを教えてください。
- 3 あなたは「なぜ」「どうして」と思いながら、算数の学習をしていますか。
- 【いつも思う ときどき思う あまり思わない 思わない】 もなたは、算数の学習で分からない問題があった時にどうしますか。
- 4 あなには、昇数の子省で方からない同趣があった時にとうしま ア)自分で調べる。 そのわけを教えてください。
- イ) 先生や友達に聞く。
- ウ) そのままにしておく。

「ある」と答えた人に聞きます。算数の学習でうれしいと感じたのはどんな時ですか。

- 6 あなたが学習をする時に、どの方法が分かりやすいですか。当てはまるものすべてに ○を つけてください。
- ア) 道具を使って考える(数えぼう,お金,色板などを使う)。
- イ)かいて考える(式を立てて考える,絵や図を使う)。
- ウ) 頭の中で考える。
- 7 あなたは算数の学習で、どんな学習の仕方が好きですか。当てはまるものすべてに ○をつけてください。
- ア) 一人で調べて(考えて)学習する。
- イ) 二人で調べて(考えて)学習する。
- ウ) グループで調べて(話し合って)学習する。
- エ) 先生とみんなで一緒に話し合って(考え)学習する。



【資料2 アンケートの例①】

イ 教材・教具に焦点を当てた「分かる喜び」「できる喜び」を味わわせる学習指導モデル

段階	実態把握力	授業設計力	授業展開力
授業前	ト	 場面設定に配慮する。 教材・教具を選定する。 学習形態を工夫する。 発問 より具体的に考えさせる発問や,多様な考えを引き出せる発問など工夫した発問を設 	
	 識調査を行う。 ◆ アンケート・レディネステストの結果 ○ 学習内容への興味や学び方等に関って効果し、実態にあす具の開発や活用に生かす。 ○ 学習状況の実態を把握し、到達度に応じた効果的な教材・教具の開発や活用に生かす。 	 ◆ 比較 ○ 既習事項と未習事項の比較が行えるような学習課題や資料を提示する。 ◆ 身近なものの活用 ○ 地域素材を活用する。 ○ 虫などの身近な物をキャラクター化し、活用する。 ◆ 資料 ○ 教科書会社が配布しているCDやDVD等を利用した資料やワークシートを作成、活 	 ◇ 見通し ○ 考える時間をしっかりと確保する。 ○ 知りたい,学びたいなどの意欲を高めるために,不満自覚をもたせるようにする。 ◆ 教師の手立て ○ 活動を支援する手立てや時間を確保する。 ◆ 教材・教具の活用
展開	用先で估用に生がす。	(マーケットを作成, 宿用する。	 製料・製具の協用 具体物を使って,操作的な活動を行わせる。 教材・教具を活用する場面を設定する。 (自力解決の場,学び合いの場) 個に応じた指導 ヒントコーナーを活用させるが,その際「何のためのヒントコーナーか」,「何があるのか」,「そこで,何があるのか」を明確にしておく。
終末慢業	◆ 授業の評価・改善のための アンケート ○ 具体的な教材・教具の活	◆ 確かめる問題○ まとめの有効性,一般性を 確かめるために類題を作成す る。	◆ まとめる○ 内容,発達段階によって 児童生徒の意見を参考にま とめる場合と,教師によっ てまとめる場合を使い分け る。

用の効果を把握し手立ての 後 有効性を検証する。

○ 検証のための事後の意識 調査を行う。

◆教材・教具に関すること, ◇教材・教具に付随すること

「分かる喜び」「できる喜び」を味わわせる授業に生かすための事後アンケートのモデル

授			
業	観	点	ねら い
力			
			現実的な場面設定によって、学習意欲が喚起できたかの検証
			身近な地域素材の活用により、興味・関心を高めることができたかの検証
授	教材化・教	数材開発	2つの教材の提示による比較検討によって、意欲が喚起できたかの検証
業			既習事項と未習事項,簡単なものと難しいものの提示によって,知的好奇心
計			と解決への意欲が高まったかの検証
力			問題解決への見通しをもつことができるように工夫されたかの検証
	教材・教具	₩ 目	(導入段階)
	教 材•	教具	問題解決のための資料として活用できるように工夫されたかの検証
			(展開段階)
授			個人差へ対応し、解決への見通しをもたせ、児童生徒に満足感をもたせるこ
業			とができたかの検証
展	教材・教具	具の活用	
開			どの段階で学習課題の解決を図ることができたかの検証
力			
	「分かる喜	び」	「八ふえ声が」「ベシス声が」に関わる旧会生法の会強の柵根
	「できる喜	び」	「分かる喜び」「できる喜び」に関する児童生徒の意識の把握

上記のモデルを基にして、中学2年生の社会科「世界と日本の人口」のアンケートの例を示す。

- 1「教材化・教材開発②」
- 2 「教材化・教材開発③」
- 3「教材化・教材開発④」
- 4「教材・教具」
- 5「教材・教具の活用①」
- 6「教材・教具の活用②」
- 7「分かる喜び、できる喜び」

950

社会科についてのアンケート 2年()組 名前(

今日の授業で思った事や感じたことを書いてください。(これはテストではありません)

- 「三股町の取り組み」の学習に興味 関心をもって取り組むことができましたか。【はい いいえ】 それななぜですか。
- 「宮崎県の人口推移」と「三股町の人口推移」の資料(グラフ)を比べた時,三股 町の人口が増加していることに疑問をもちましたか。

【はい いいえ】

- 「三股町の人口推移」の資料(グラフ)を見た時,「人口増加の理由を調べてみた い」という気持ちになりましたか。
- 【はい いいえ】
- 「三股町の人口増加の理由」について考える時、用意された資料から「調べてみ よう」という気持ちになりましか。

【はい いいえ】

「ヒントコーナー」を活用しましたか。 「はい」と答えた人は,どのようなことが役に立った

【はい いいえ】

- か記入してください。
- 「三股町の人口増加の理由」について,あなたが「分かった」と感じたのはいつですか。1つ だけ選び番号に○を付けましょう。
- (1) 一人で調べて(考えて)学習している時 (2) ヒントコーナーを活用した時
- (3) 友達に教えてもらった時 (4) 班内で発表し合っている時
- (5) 全体の場で発表しているのを聞いた時
- (6) 先生の説明を聞きながら (7) 最後まで分からなかった 先生の説明を聞きながらみんなで学習している時

今日の社会科(地理的分野)の学習で、「分かってうれしい」「できてうれしい」と思いましたか。 【はい いいえ】

それはなぜですか。

【資料3 アンケートの例②】

Ⅷ 本年度の研究の成果と課題

1 成果

- 身近なものを教材化することが、児童生徒の興味・関心を高め、主体的な問題解決の活性化・ 促進化につながることが分かった。(アリとダンゴムシ、三股町の人口) その際、児童生徒の追 求意欲を高める工夫を行うことが重要であることも分かった。
- 小学校、中学校という校種を超えても、教材開発の視点として2つの事象を比較させることによって、児童生徒に「分かる喜び」「できる喜び」を味わわせることができた。その際、比較させる事象の視点として、既習と未習、簡単なものと難しいもの、身近なものと遠いものという相反するものが効果的であることが分かった。
- 授業力に関して、教材・教具の工夫という視点から、教材・教具の準備と作成及び活用という 2つの柱で授業を構成し、具体的な事例を小学校、中学校それぞれで示すことができた。
- 教材・教具の視点で研究することで、それに付随する活動やポイント、留意点が明らかになり、 それによって授業モデルを構築することができた。
- 昨年度調査研究した質問紙から授業を構成するのに必要な項目を洗い出し、授業に生かすため の具体的なアンケート内容のモデルができた。
- 授業前にアンケートやレディネステストを実施し、実態把握をして授業を設計していく重要性 を再確認した。(学習方法や学習形態の工夫等)つまり、授業展開力を高めるには、授業把握力 や授業設計力の向上が大切であることが分かった。

2 課題

- 身近なものを教材化することで、児童生徒の興味・関心を高めることはできたが、「分かる喜び」「できる喜び」を味わわせることは不十分であった。今後は、その教材・教具を使って学習する必要感や切実感をもたせるような工夫が大切である。
- 児童生徒が課題解決に向けて、教材・教具を適切に活用できるように訓練していくことと、教 師がどの段階でどのように教材・教具を活用するか明らかにする必要がある。
- 昨年度の調査研究から明らかになった課題のうち、残された2つの課題「板書」「評価」についても研究していく必要がある。また、新学習指導要領の改訂に伴って、その改訂の趣旨を生かした授業の在り方に取り組んでいく必要もある。